



鶴岡市立荘内病院 医学雑誌

第28巻/2017

The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital

巻頭の言葉

院 長 三 科 武

特集 当院の認知症ケアチームの現状と課題 1

荘内病院の認知症ケアチームについて	統括看護主幹	丸山 邦
急性期病院における医師の認知症患者への対応について	神経内科	丸谷 宏
認知症看護認定看護師としての役割と認知症ケアチームの取り組み	認知症看護認定看護師	富樫千代美
退院後訪問指導について	認知症看護認定看護師	富樫千代美
本市における認知症施策の動向と当院の現状について	社会福祉士	菅原 繁
薬剤師の関わりと今後の課題	薬剤師	五十嵐康郎
理学療法士の役割	理学療法士	森 和浩
認知症と作業療法	作業療法士	石橋 史織
臨床心理士の役割と課題	臨床心理士	柏倉 貢
外来の認知症診療の現状と課題	内科外来主査	百瀬 幸

原著・研究・症例

鶴岡市立荘内病院歯科口腔外科開設から11.5年間における顎変形症治療に関する臨床統計的検討	35
歯科口腔外科	本間 克彦
サラズスルファピリジン投与により薬剤過敏症候群様症状を呈した関節リウマチの1例	49
臨床研修医	鈴木 優太
インスリン製剤をバイオ後続品へ切り替えた際の製品への患者からの評価に関するアンケート調査	55
薬 局	五十嵐康郎
二相型悪性胸膜中皮腫の一例	61
病 理 科	菅原永里奈
当院における抗血栓薬内服と脳出血の関係について	69
臨床研修医	佐藤 和彦
当院における終末期患者のペット面会の現状と今後の課題	75
緩和ケアチーム	
看 護 部	渡部 美佳
当院の肺動静脈3DCTの検討	79
放射線画像センター	高橋 圭史
2016年 学術活動業績	85

2016年 學術活動業績

2016年学術活動業績

I 他誌掲載論文

「病院勤務医と医師会会員との懇談会」が開催されました

鶴岡市立荘内病院

外科 鈴木 聡

めでいかすとる 第292号：3, 2016

鶴岡市立荘内病院でのIBD治療

鶴岡市立荘内病院

外科 鈴木 聡

CCJAPAN 95：8-9, 2016

橈骨遠位端骨折に対する掌側ロックングプレート
固定後の手指拘縮

鶴岡市立荘内病院

整形外科 後藤真一

日手会誌 32(6)：1014-1017, 2016

特集 薬の効果から療養のコツまでギョット凝縮5
分で伝わる！糖尿病薬そのまま使える説明シート
ビグアナイド薬、チアゾリジン薬、5 α -グルコ
シターゼ阻害薬

鶴岡市立荘内病院

薬局 鎌田敬志

糖尿病ケア 13(5):410-415, 2016

Ⅱ 学 会 発 表

〔内 科〕

R-CHOP療法と局所放射線療法で初期治療した
Mediastinal gray-zone lymphomaの1例

鶴岡市立荘内病院

内 科 和泉典子、小池千里

呼吸器科 河上英則

第209回日本内科学会東北地方会

(2016年9月10日) 山形市

〔外 科〕

stage IV乳癌の腋窩リンパ節転移に対して局所制
御的に手術を施行した1例

鶴岡市立荘内病院

外 科 齋藤敬太、坂本 薫、中橋健太、

山田沙希、鈴木 聡、三科 武

小児外科 大滝雅博

北村山公立病院

乳腺外科 鈴木真彦

第13回日本乳癌学会東北地方会

(2016年3月5日) 仙台市

外科医が率先して行うがん患者の口腔機能管理を
目的とした医科歯科連携 (ポスター)

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡、二瓶幸栄、大滝雅博、

坂本 薫、八木 寛、齋藤敬太、

城之前翼、永井 佑、三科 武

第116回日本外科学会

(2016年4月14日) 大阪市

緩和ケア普及・啓発のための庄内プロジェクト
「市民公開講座」の有用性について

南庄内緩和ケア推進協議会

鈴木 聡、土田兼史、佐藤久美、

瀬尾利加子、齋藤 啓、篠田太郎、

和泉典子、高橋美香子、高橋牧郎、

三科 武、三原一郎

第21回日本緩和医療学会

(2016年6月17日) 京都市

庄内プロジェクトがん・患者サロン「ほっと広場」
の有用性

南庄内緩和ケア推進協議会

阿部美知子、鈴木 聡、和泉典子、

相庭 伸、上林沙希子、鉦持朝子、

阿部和人、富樫 清、中村秀幸、

三科 武、三原一郎

第21回日本緩和医療学会

(2016年6月17日) 京都市

緩和ケアチーム (PCT) 主催の患者・家族会の
現状と課題

鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム

上林沙希子、阿部美知子、佐々木孔美、

鈴木 聡、和泉典子、大井直子、

富樫博子、小林 拓、風間千沙子、

竹内梨紗

第21回日本緩和医療学会

(2016年6月17日) 京都市

虫垂切除後にMixed adenoendocrine carcinoma
と診断され追加切除を施行した一例

鶴岡市立荘内病院

外 科 水木 亨、坂本 薫、齋藤浩一、

早坂一希、中橋健太、白井賢司、

八木 寛、白幡康弘、鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第4回日本臨床外科学会山形県支部会

(2016年6月25日) 山形市

画像所見と乖離を認めた乳腺細胞診過剰診断の2
例

鶴岡市立荘内病院

病 理 科 鈴木俊市、内ヶ崎新也

外科 鈴木 聡、坂本 薫、白幡康弘、
八木 寛、臼井賢司、水木 亨、
中橋健太、早坂一希、齋藤浩一、
赤羽根健太郎、三科 武

第40回山形県乳腺疾患研究会

(2016年8月20日) 山形市

Usefulness of hepatic arterial infusion therapy
for unresectable liver metastases from
colorectal cancer

Dept. of Surgery,

Tsuruoka Municipal Shonai Hospital, Japan

Satoshi Suzuki, Kaoru Sakamoto,

Yasuhiro Shirahata, Masahiro Otaki,

Yutaka Yagi, Takeshi Mishina

IASGO 2016 (South Korea)

(2016年9月8日) 韓国ソウル市

腸閉塞患者における尿中ヒト腸型脂肪酸結合蛋白
(I-FABP) 濃度に関する検討

鶴岡市立荘内病院

外科 坂本 薫、早坂一希、中橋健太、
水木 亨、臼井賢司、八木 寛、
鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第78回日本臨床外科学会

(2016年11月24日) 東京都

虫垂炎保存的治療 待機的虫垂切除後に腺内分泌
細胞癌と診断された2例

鶴岡市立荘内病院

外科 水木 亨、坂本 薫、早坂一希、
臼井賢司、八木 寛、鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第78回日本臨床外科学会

(2016年11月24日) 東京都

十二指腸GISTとの鑑別が必要であった後腹膜
原発paragangliomaの1例

鶴岡市立荘内病院

外科 赤羽根健太郎、坂本 薫、早坂一希
水木 亨、臼井賢司、八木 寛、

白幡康弘、鈴木 聡

第35回庄内医師集談会

(2016年11月27日) 酒田市

検診で発見された乳腺 Oncocytic carcinoma の
1例

鶴岡市立荘内病院

外科 水木 亨、坂本 薫、早坂一希、
臼井賢司、八木 寛、白幡康弘、
鈴木 聡、三科 武

第281回新潟県外科集談会

(2016年12月3日) 新潟市

〔小児外科〕

小児外科手術におけるVITOM II TM システムの
有効性について

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 鈴木 聡、三科 武

第53回日本小児外科学会

(2016年5月24-26日) 福岡市

地方一般病院における小児外科専門医の存在意義
とキャリアパスの展望 ~新しい外科領域専門研
修制度での、今後の小児外科専門医について~

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 鈴木 聡、三科 武

第53回日本小児外科学会

(2016年5月24-26日) 福岡市

〔呼吸器外科〕

S7ab型の右S7肺癌に対して胸腔鏡下にS7a亜区
域切除術を行った1例

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 正岡俊明、中橋健太

第33回日本呼吸器外科学会総会

(2016年5月13日) 京都市

上気道狭窄症例に対する輪状甲状靱帯切開カニュー
レからの高流量酸素療法の経験

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 正岡俊明

呼吸器科 星野芳史

麻酔科 岸 正人、渡部直人

RST 三浦良哉、渡部まゆみ、
長谷川幸人、齋藤加恵、田中大輔、
佐藤慎吾、薄葉由里子

第38回日本呼吸療法医学会学術集会

(2016年7月17日) 名古屋市

肺癌を疑って切除された非癌性GGN症例の検討

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 正岡俊明、中橋健太

第55回日本肺癌学会東北支部学術集会

(2016年7月23日) 仙台市

原発性肺癌との鑑別が困難であったアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) の1切術例

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 中橋健太、正岡俊明

第55回日本肺癌学会東北支部学術集会

(2016年7月23日) 仙台市

当科での術前3DCTによる手術支援法の変遷

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 正岡俊明

第11回山形呼吸器外科研究会

(2016年10月15日) 山形市

右S※肺癌に対して後方アプローチによるS※+10区域切除を行った一例

鶴岡市立荘内病院

呼吸器外科 正岡俊明、中橋健太、早坂一希

第57回日本肺癌学会

(2016年12月20日) 福岡市

〔整形外科〕

骨粗鬆症性椎体骨折に対する棘突起プレートを用いた後方手術の矯正損失抑制効果

鶴岡市立荘内病院

整形外科 渋谷洋平、浦川貴朗、後藤真一

第26回東北脊椎外科研究会

(2016年1月30日) 仙台市

両側膝蓋骨疲労骨折の1例

鶴岡市立荘内病院

整形外科 穂苅 翔、日向野行正、後藤真一、
浦川貴朗、渋谷洋平、鈴木宣瑛、
平野優樹、染矢圭一郎

第225回新潟整形外科研究会

(2016年3月19日) 新潟市

高齢者脆弱性恥骨骨折における骨盤輪後方要素の合併とその機能予後

鶴岡市立荘内病院

整形外科 鈴木宣瑛、後藤真一、日向野行正、
浦川貴朗、上村一成、穂苅 翔、
渋谷洋平、平野優樹、染矢圭一郎

第113回東北整形災害外科学会

(2016年6月17日) 仙台市

肩峰骨折に対して上腕骨遠位用ロッキングプレートを用いて内固定を行った1例

鶴岡市立荘内病院

整形外科 染矢圭一郎、日向野行正、後藤真一、
浦川貴朗、上村一成、穂苅 翔、
渋谷洋平、鈴木宣瑛、平野優樹

第113回東北整形災害外科学会

(2016年6月17日) 仙台市

強直性脊椎病変に合併した脊椎脱臼骨折の2例

鶴岡市立荘内病院

整形外科 染矢圭一郎、浦川貴朗、渋谷洋平、
後藤真一、日向野行正、上村一成、
穂苅 翔、鈴木宣瑛

第41回庄内整形外科医会

(2016年6月25日) 鶴岡市

骨粗鬆症性椎体骨折に対する棘突起プレートを用いた後方固定併用椎体形成術の成績

鶴岡市立荘内病院

整形外科 渋谷洋平、浦川貴明

新潟大学医歯学総合病院

整形外科 平野 徹、渡辺 慶、遠藤直人

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

整形外科 勝見敬一

新潟中央病院

脊椎・脊髄外科センター 山崎昭義

新潟県立新発田病院

整形外科 佐野敦樹

第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会

(2016年10月29日) 長崎市

高齢者に対する切断指再接着術の特徴

鶴岡市立荘内病院

整形外科 後藤真一、上村一成、鈴木宣瑛、

第43回日本マイクロサージャリー学会

(2016年11月18日) 広島市

小児上肢骨折の受傷状況とその特徴

鶴岡市立荘内病院

整形外科 上村一成、後藤真一、日向野行正、

浦川貴朗、穂苅 翔、渋谷洋平、

荒引 剛、藤田 裕

第42回庄内整形外科医会

(2016年11月26日) 酒田市

前方搔破骨移植に加え棘突起プレートを用いて後方制動し感染鎮静化に成功した腰椎化膿性椎間板炎の2例

鶴岡市立荘内病院

整形外科 渋谷洋平、浦川貴朗、後藤真一、

第227回新潟整形外科研究会

(2016年11月26日) 新潟市

〔小児科〕

ボンティアック熱型と診断したレジオネラ感染症の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 丸山 馨、幾瀬 樹、坂井知倫、

布施理子、黒沢大樹、楡井 淳、

齋藤なか、吉田 宏

第102回日本小児科学会山形地方会

(2016年4月24日) 山形市

High flow nasal canulaの早期介入により挿管管理を回避できたRSウイルスの症例

鶴岡市立荘内病院

小児科 布施理子、幾瀬 樹、丸山 馨、

坂井知倫、黒沢大樹、楡井 淳、

齋藤なか、吉田 宏

第102回日本小児科学会山形地方会

(2016年4月24日) 山形市

軟性気管支鏡観察下にバルーンカテーテルを用いて摘出した気管支異物の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 谷 知行、幾瀬 樹、布施理子、

黒沢大樹、新井 啓、田中 岳、

齋藤なか、吉田 宏

呼吸器科 星野芳文

呼吸器外科 正岡俊明

第222回日本小児科学会新潟地方会

(2016年5月28日) 新潟市

乳幼児の「おしゃぶり」と不正咬合

鶴岡市立荘内病院

小児科 布施理子

第63回日本小児保健協会学術集会

(2016年6月25日) 大宮市

頻回の痙攣重積発作に対して皮下埋め込み型中心静脈カテーテルを留置したDravet症候群の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 黒沢大樹

第30回日本小児救急医学会学術集会

(2016年7月1日) 仙台市

特発性副甲状腺機能低下症と性腺機能低下症を合併したGCM2遺伝子変異の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 黒沢大樹

第22回山形小児内分泌・代謝研究会

(2016年7月8日) 山形市

2016年3～5月に経験した侵襲性肺炎球菌感染症の流行

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、谷 知行、幾瀬 樹、
布施理子、黒沢大樹、田中 岳、
齋藤なか、吉田 宏

中央検査科 中島知子

新潟大学医歯学総合病院

小児科 羽深理恵、齋藤昭彦

国立感染症研究所

細菌第一部 常 彬

第103回日本小児科学会山形地方会

(2016年7月23日) 山形市

超低出生体重児で出生し診断に苦慮したCornelia de Lange症候群の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 田中 岳、谷 知行、幾瀬 樹、
布施理子、黒沢大樹、新井 啓、
齋藤なか、吉田 宏

神奈川県立こども医療センター

新生児科 豊島勝昭

第223回日本小児科学会新潟地方会

(2016年8月27日) 新潟市

アジスロマイシンが奏功した小児ツツガムシ病の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 幾瀬 樹

庄内小児科医会学術講演会

(2016年10月7日) 鶴岡市

低体温療法開始後1年間の治療成績

鶴岡市立荘内病院

小児科 田中 岳、谷 知行、幾瀬 樹、
山田 慧、中林大器、新井 啓、
齋藤なか、吉田 宏

第33回庄内周産期懇話会

(2016年11月5日) 鶴岡市

当院におけるスキンケア教育の現状

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、谷 知行、幾瀬 樹、
布施理子、黒沢大樹、田中 岳、
齋藤なか、吉田 宏

第104回日本小児科学会山形地方会

(2016年11月27日) 山形市

低身長から発見された末期腎不全の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 布施理子、谷 知行、幾瀬 樹、
黒沢大樹、新井 啓、田中 岳、
齋藤なか、吉田 宏

新潟大学医歯学総合病院

小児科 長谷川博也、山田剛史、金子詩子

第224回日本小児科学会新潟地方会

(2016年12月10日) 新潟市

年長例の糖原病Ia型に対する持続血糖モニタリングを用いた食事指導の試み

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、谷 知行、幾瀬 樹、
布施理子、黒沢大樹、田中 岳、
齋藤なか、吉田 宏

第224回日本小児科学会新潟地方会

(2016年12月10日) 新潟市

〔病理科〕

軟骨化生を伴う乳癌の一例

鶴岡市立荘内病院

病理科 石栗永里奈

第57回日本臨床細胞学会春期大会

(2016年5月28-29日) 横浜市

臃断端に見られたseromutinous tumorの一例

鶴岡市立荘内病院

病理科 阿部美沙子

第57回日本臨床細胞学会春期大会

(2016年5月28-29日) 横浜市

アポクリン化生細胞を伴った男性乳癌の一例

鶴岡市立荘内病院

病 理 科 近藤敏仁

第57回日本臨床細胞学会春期大会

(2016年 5月28-29日) 横浜市

画像所見と乖離を認めた乳腺細胞診過剰診断の2例

鶴岡市立荘内病院

病 理 科 鈴木俊市

平成28年山形県乳腺疾患研究会学術集会

(2016年 8月20日) 山形市

組織型推定を誤った肺扁平上皮癌の一例

鶴岡市立荘内病院

病 理 科 鈴木俊市

第55回日本臨床細胞学会秋期大会

(2016年11月18-19日) 別府市

〔歯科口腔外科〕

口腔癌治療におけるエコーガイド下末梢挿入型中心静脈カテーテルの有用性

福島県立医科大学

歯科口腔外科 金子哲治、山崎森里生、
長谷川博

国際医療福祉大学三田病院

頭頸部腫瘍センター 菅野千敬、

大原綜合病院

口腔外科・歯科 遠藤 学、門馬 勉

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎

第34回日本口腔腫瘍学会総会

(2016年 1月21-22日) 横浜市

下顎骨に発生した中心性歯原性繊維腫の1例

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎、齋藤大輔、本間克彦

新潟大学大学院医歯学総合研究科

組織再建口腔外科学分野 埜 健志

新潟大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面放射線学分野 林 孝文

第42回日本口腔外科学会北日本支部学術集会

(2016年 6月18-19日) 山形市

舌下腺に発生した多形腺腫の1例

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎、齋藤大輔、本間克彦

新潟大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面放射線学分野 林 孝文

第61回日本口腔外科学総会

(2016年11月25-27日) 千葉市

〔中央検査科〕

今年春に検出された侵襲性肺炎球菌感染症の疫学的調査

鶴岡市立荘内病院

中央検査科 中嶋知子

山形県微生物研究会

(2016年 9月10日) 寒河江市

TAZ/PIPCが原因と考えられる薬剤起因性溶血性貧血の一症例を経験して

鶴岡市立荘内病院

中央検査科 佐藤浩太郎

第37回山形県医学検査学会

(2016年11月 5日) 天童市

ノルディアL-FABPの基礎的検討

ノルディアL-FABPの臨床的有用性の検討

鶴岡市立荘内病院

中央検査科 大塚隼人

第37回山形県医学検査学会

(2016年11月 5日) 天童市

〔薬 局〕

小児の薬学的リスクマネジメント

鶴岡市立荘内病院

薬 局 田中 庸

第55回山形県病院薬剤師会研修会

(2016年 5月29日) 山形市

ランタス注ソロスターからインスリングルギンBS注ミリオペンへの切り替え時のアンケート調査

鶴岡市立荘内病院

薬 局 五十嵐康郎、鎌田敬志、佐藤 導
第26回日本医療薬学会年会

(2016年9月17日) 京都市

ノボラビッド30ミックス注フレックスペンからライゾデグ配合注フレックスタッチへ切り替え説明直後の患者アンケート

鶴岡市立荘内病院

薬 局 鎌田敬志、荒井真智子、
五十嵐康郎、石川大介、佐藤 導
第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会

(2016年10月29-30日) 神戸市

山形県内における血糖測定器採用・運用状況の調査と今後の課題

鶴岡市立荘内病院

薬 局 鎌田敬志、五十嵐康郎、
看護部 齋藤まゆ、長濱恵美、阿部優子、
宅井さやか、押井あけみ、百瀬 幸
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院
薬 局 鈴木悠太
日本海総合病院
薬 剤 部 成田康之
日本糖尿病学会第54回東北地方会

(2016年11月12日) 仙台市

インスリン製剤をバイオ後続品へ切り替えた際の患者満足度についてのアンケート調査

鶴岡市立荘内病院

薬 局 五十嵐康郎、鎌田敬志、荒井真智子
看護部 宅井さやか
日本糖尿病学会第54回東北地方会

(2016年11月12日) 仙台市

〔リハビリテーションセンター〕

がんのリハビリテーションの取り組みについて

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 小林 拓
第11回庄内緩和医療研究会

(2016年8月6日) 酒田市

庄内南部地域急性心筋梗塞パス3年の運用経験

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 渡部美穂
第17回日本クリニカルパス学会学術集会

(2016年11月25-26日) 金沢市

〔看護部〕

新規おむつ導入に伴う当入院棟の交換回数の変化

鶴岡市立荘内病院

看護部 佐藤 南、梅本貴子
第25回日本創傷・ストーマ失禁管理学会

(2016年6月11-12日) 金沢市

緩和ケアチーム主催の患者・家族会の現状と課題

鶴岡市立荘内病院

看護部 上林沙希子

庄内プロジェクトがん患者・家族サロン“ほっと広場”の有用性

鶴岡市立荘内病院

看護部 阿部美知子
第21回日本緩和医療学会

(2016年6月17-18日) 京都市

A病院集中治療センターにおけるVAP予防の取り組みとその成果-RSTとの協働-

鶴岡市立荘内病院

看護部 三浦良哉
第25回日本集中治療医学会東北地方会

(2016年6月25日) 仙台市

入院棟看護師の排泄ケアに対する意識調査

鶴岡市立荘内病院

看護部 高橋悠里

医療機器関連圧迫予防ケアの取り組み-予防ケアマニュアルを作成・活用して-

鶴岡市立荘内病院

看護部 佐藤 舞

人工呼吸器関連肺炎予防に対する意識向上への取り組みと課題 -VAPバンドル実施状況調査と専門チームとの協働-

鶴岡市立荘内病院

看護部 三浦良哉

小児科における感染症マニュアルの見直しと一覧表の作成を行って

鶴岡市立荘内病院

看護部 庄司敦子

急性期からの口腔ケアの積極的な実施に向けて

鶴岡市立荘内病院

看護部 清和穂奈美

夜間の体位交換と転倒転落発生の関連

鶴岡市立荘内病院

看護部 牧 順

日本医療マネジメント学会第13回山形県支部学術集会

(2016年7月16日) 山形市

褥瘡新規発生患者の要因分析と今後の課題

鶴岡市立荘内病院

看護部 梅本貴子

BMI19.9脊椎部に発生した褥瘡に加工パッドを使用し治癒促進した症例の考察

鶴岡市立荘内病院

看護部 百瀬 幸

第18回日本褥瘡学会

(2016年9月2-3日) 横浜市

看護師による難治性潰瘍に対するサポートチーム立ち上げの経過報告

鶴岡市立荘内病院

看護部 梅本貴子、百瀬 幸

庄内余目病院

看護部 富樫裕美、三浦弘子

日本海総合病院

看護部 小向里江子、高橋 忍、
加藤真由美、日下部豊美

第2回日本下肢救済・足病学会東北地方会

(2016年10月3日) 山形市

当院における終末期患者のペット面会の現状と今後の課題

鶴岡市立荘内病院

看護部 阿部美知子

第40回日本死の臨床研究年次大会

(2016年10月8-9日) 札幌市

NICUにおける医療関連機器圧迫創への対応

—電極キャップによる褥瘡発生の経験から—

鶴岡市立荘内病院

看護部 中野早苗

第13回日本褥瘡学会東北地方会

(2016年10月29日) 仙台市

小学2年生に実施した性教育出前講座内容の期待とずれ —児童、保護者の感想分の振り返りから—

鶴岡市立荘内病院

看護部 工藤智子

集中治療センターにおけるPNS®に対する意識の変化

鶴岡市立荘内病院

看護部 阿部裕子

A病院のグリーンケアの現状と今後の課題

—残された家族にメッセージカードを発送して—

鶴岡市立荘内病院

看護部 阿部美知子

血液透析患者のシャント肢スキントラブルとスキンケアの実態—スキントラブル予防のために—

鶴岡市立荘内病院

看護部 吉田里枝

排泄ケアに対する看護師の意識調査

鶴岡市立荘内病院

看護部 梅本貴子

食べる・目覚める・肺炎予防につなげる積極的な口腔ケアの実施

鶴岡市立荘内病院

看護部 井上裕子

超緊急帝王切開術の迅速な受け入れに向けた関連部署スタッフとの取り組み

—体験型学習会を行って—

鶴岡市立荘内病院

看護部 坂尾麻衣

山形県看護研究学会

(2016年11月10日) 山形市

汚物処理室における感染対策の見直し

鶴岡市立荘内病院

看護部 若松由紀子

庄内感染対策セミナー

(2016年11月19日) 鶴岡市

脊椎圧迫骨折電子バス患者の現状分析

鶴岡市立荘内病院

看護部 菅原早苗

第17回全国クリニカルバス学会

(2016年11月24-25日) 金沢市

[歯科衛生士]

「食べる」に繋げる機能的口腔ケアの実施－歯科衛生士の関わり－

鶴岡市立荘内病院

歯科衛生士 石垣佑美

山形NST研究会

(2016年12月16日) 山形市

Ⅲ 院 外 講 演

〔内 科〕

看とりのケア

鶴岡市立荘内病院
内 科 和泉典子
庄内プロジェクト 緩和ケアを学ぼう会
(2016年10月14日)

〔外 科〕

庄内プロジェクトとその後

鶴岡市立荘内病院
外 科 鈴木 聡
ヘルスケアマネジメント・イノベーションのための
コミュニティケア勉強会 in 鶴岡
(2016年 2 月20日)

医療者教育ワーキンググループの活動報告（第一部）／特別シンポジウム「庄内プロジェクトのこれからを考える」（第二部）

鶴岡市立荘内病院
外 科 鈴木 聡
平成27年度庄内プロジェクト活動報告会
(2016年 2 月27日)

緩和ケアについて

鶴岡市立荘内病院
外 科 鈴木 聡
平成27年度第 6 回つるおか健康塾
(平成28年 3 月19日)

庄内プロジェクトの活動を知ろう！

その 1. 「緩和ケア普及のための地域プロジェクト 庄内プロジェクト」

鶴岡市立荘内病院 外 科
緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川
センター長 鈴木 聡
平成28年度第 2 回庄内南部地域連携パス推進協議会全体会
(2016年 5 月17日)

がん終末期患者の緩和ケア

鶴岡市立荘内病院
外 科 鈴木 聡
新潟青陵大学 看護学科・福祉心理学科4年生対象特別講義
(2016年 5 月19日)

緩和ケアについて

鶴岡市立荘内病院 外科
緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川
センター長 鈴木 聡
第10回緩和ケア市民公開講座
(2016年11月12日)

〔整 形 外 科〕

中高齢者の膝の痛み（変形性膝関節症）の治療法

鶴岡市立荘内病院
整形外科 日向野行正
病院勤務医と医師会会員との懇談会
(2016年 7 月14日)

〔小 児 科〕

小児救急診療の基本 ～第一印象（PAT）、vital signs評価、ABCDE へのアプローチ～

鶴岡市立荘内病院
小 児 科 黒沢大樹
平成28年度鶴岡地区医師会小児救急講習会
(2016年 2 月25日)

クラゲ刺傷についてーカギノテクラゲを中心にー

鶴岡市立荘内病院
小 児 科 吉田 宏
平成28年度クラゲマイスター養成講座
(2016年 6 月18日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院
小児科 黒沢大樹
平成28年度小児救急医療講習会 in いなば幼稚園
(2016年 7 月14日)

子どもの発育と病気について（母乳育児,早寝早起き,メディアとのつきあい方含め）

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

平成28年度鶴岡市子育てサポーター基礎講習

(2016年7月26日)

生活リズム何故大切？メディア接触何故問題？

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

すこやかネット出前子育て懇談会 in 渡前小

(2016年9月27日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院

小児科 斎藤なか

平成28年度小児救急医療講習会 in 東郷保育園

(2016年11月11日)

新生児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

平成28年度山形県消防学校救急科

(2016年11月17日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

平成28年度小児救急医療講習会 in 湯田川保育園

(2016年11月19日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

平成28年度小児救急医療講習会 in 常念寺保育園

(2016年11月25日)

小児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院

小児科 谷 知行

平成28年度山形県消防学校救急科

(2016年11月30日)

メディアと子供の健康問題

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

すこやかネット出前子育て懇談会 in あさひ小学校

(2016年12月9日)

〔放射線科〕

高度・良質な医療を求めて

～放射線科の取り組み～

鶴岡市立荘内病院

放射線科 斉藤聖宏

荘内病院地域医療連携推進協議会と鶴岡地区医師会と登録医と荘内病院の合同懇談会

(2016年12月14日)

〔薬 局〕

山形県内病院の血糖測定器・穿刺器に関するアンケート調査と課題

鶴岡市立荘内病院

薬 局 鎌田敬志

第7回庄内薬剤師糖尿病講演会

(2016年7月9日)

当院での抗癌剤調製と曝露対策

鶴岡市立荘内病院

薬 局 阿部和人

庄内地区病院薬剤師セミナー

(2016年9月2日)

鶴岡市立荘内病院のAntimicrobial Steward shipへの取り組みと評価

鶴岡市立荘内病院

薬 局 草島宏平

第15回山形県インフェクションコントロール研究会

(2016年9月10日)

医療麻薬について～おさらい編～

鶴岡市立荘内病院

薬 局 高橋直子

平成28年度第3回緩和ケアスキルアップ研修会

(2016年11月16日)

〔リハビリテーションセンター〕

腰痛のお話

鶴岡市立荘内病院
リハビリテーションセンター 小林 拓
つるおか健康塾

(2016年5月21日)

〔栄 養 科〕

看取り期の食事、栄養の必要性とすすめ方

鶴岡市立荘内病院 栄 養 科
緩和ケアチーム 富樫博子
出張緩和ケア研修会

(2016年1月26日)

終末期の栄養管理の考え方

～生きる力、食べる楽しみを支えた最後の一口～

鶴岡市立荘内病院 栄養科
緩和ケアチーム 富樫博子
第3回鶴岡地区緩和ケア学術講演会

(2016年7月15日)

災害時、あなたは どうする

～いざという時の栄養と食事～

鶴岡市立荘内病院 栄養科 富樫博子
公益社団法人山形県栄養士会公開講座

(2016年12月10日)

〔看 護 部〕

高齢者ケアと人工栄養に関する意思決定

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 上林沙希子
出張緩和ケア研修会

(2016年1月26日)

緩和ケア、心のケア

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 阿部美知子
山形県美容師会庄内支部研修会

(2016年2月8日)

看取り期から死別後までのケア

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 上林沙希子
看取りケア研修

(2016年3月18日)

乳がん患者の診断から治療意思決定支援まで

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 竹内梨沙

乳がん患者の早期からの緩和ケア

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 上林沙希子
北村山乳がんセミナー

(2016年5月13日)

乳がん検診してますか？

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 竹内梨沙
山形県看護協会健康まつり

(2016年5月14日)

コンチネンスケアの地域連携実現に向けて

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 梅本貴子
庄内地域CST会

(2016年6月4日)

ストーマ患者会について

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 梅本貴子
キャンサーボード鶴岡

(2016年6月21日)

実はいろいろ?! ー低血糖の種類とその対処法ー

鶴岡市立荘内病院
看 護 部 宅井さやか

第2回庄内糖尿病オールサポートネット研修会

(2016年6月28日)

排泄ケアの取り組み

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
TENA排泄ケアセミナー

(2016年7月16日)

乳がん検診してますか？

鶴岡市立荘内病院
看護部 竹内梨沙
まちの保健室

(2016年10月8日)

排泄における退院サマリーの重要性

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
TENA排泄ケアセミナー

(2016年7月25日)

災害支援ナース

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
災害支援ナース育成研修

(2016年10月11-12日)

排泄ケアについて

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
認知症の人と家族の交流の集い

(2016年7月25日)

災害支援ナース派遣から活動の実際

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
災害支援ナースフォローアップ研修

(2016年11月4日)

感染防止のための院内環境を整備しよう

鶴岡市立荘内病院
看護部 若松由紀子
庄内余目病院感染対策研修会

(2016年7月26日)

排泄ケアの改革を目指した取り組み

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
TENAコンチネンスケアセミナー

(2016年11月12日)

褥瘡について

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
朝日ぶなの木会職員研修会

(2016年8月29日)

排泄ケアとスキンケア

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
庄内排泄ケア連携会研修会

(2016年11月18日)

スキンケア

鶴岡市立荘内病院
看護部 梅本貴子
医療と介護の隣接行為研修

(2016年9月7日)

乳がん患者の特徴的支援～乳がん看護認定看護師としての関わり～

鶴岡市立荘内病院
看護部 竹内梨沙
つる薬ネット講演会

(2016年9月15日)

IV 院内各種研修会

<p>〔内 科〕</p> <p>がん疼痛の評価と治療</p> <p>和泉典子</p> <p>緩和ケア入門講座</p> <p>(2016年12月15日)</p>	<p>〔小 児 科〕</p> <p>第94回荘内病院小児科病診連携研究会</p> <p>日時：平成28年1月28日（木曜日）</p> <p>内容：</p> <p>1）平成27年10月から12月までの紹介患者経過報告 坂井知倫</p> <p>2）トピックス</p> <p>①軽症脳炎を呈した川崎病の回復期に骨髄炎を合併した1例 丸山 馨</p> <p>②NHFC早期介入により挿管管理を回避できたRSV症例 布施理子</p> <p>③プロプラノロールによる治療をおこなっている頸部血管腫の1例 黒沢大樹</p> <p>④衛研の結果から見える小流行 幾瀬 樹</p> <p>3）最近の抄読会から 楡井 淳</p>
<p>〔整形外科〕</p> <p>脊椎ナビゲーション手術について</p> <p>澁谷洋平</p> <p>手術室勉強会</p> <p>(2016年1月6日)</p>	<p>第95回荘内病院小児科病診連携研究会</p> <p>日時：平成28年4月28日（木曜日）</p> <p>内容：</p> <p>1）平成28年1月から3月までの紹介患者経過報告 谷 知行</p> <p>2）トピックス</p> <p>①心電図変化を来した心臓震盪の1例 幾瀬 樹</p> <p>②嘔吐を主訴に来院した新生児例 布施理子</p> <p>③良性乳児部分てんかん(良性乳児てんかん)の診断と治療について ～aEEGの活用も含めて～ 黒沢大樹</p> <p>④アレルギー領域の最近の話題 ～アレルギーの早期摂取を中心に～ 新井 啓</p>
<p>がんの脊椎転移に対する整形外科手術と周術期管理</p> <p>浦川貴朗</p> <p>第6回緩和ケア入門講座</p> <p>(2016年1月21日)</p>	
<p>がんの脊椎転移に対する整形外科手術と周術期管理</p> <p>浦川貴朗</p> <p>平成27年度第9回がんセンターボード鶴岡</p> <p>(2016年2月16日)</p>	
<p>頸髄損傷ノ評価及治療</p> <p>浦川貴朗、澁谷洋平</p> <p>院内勉強会（ICU）</p> <p>(2016年7月27日)</p>	
<p>伝達麻酔 特に超音波ガイド下ブロックについて</p> <p>上村一成</p> <p>院内勉強会（救急センター）</p> <p>(2016年10月11日)</p>	

⑤学校でのアレルギー研修会を通して見えてくる課題

三井病院 三井直弥

追加) 2016年インフルエンザ分離培養結果

伊藤末志

3) 最近の抄読会から

田中 岳

ついて

臨床研修医 工藤俊之介

④当科肥満外来の25年と当地における学童肥満の割合の年次推移

谷 知行

3) 最近の抄読会から

田中 岳

第96回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成28年7月29日（金曜日）

内容：

1) 平成28年4月から6月までの紹介患者経過報告

黒沢大樹

2) トピックス

①アジスロマイシンが奏効した小児ツツガムシ病の一例

幾瀬 樹

②低身長から発見された末期腎不全の一例

布施理子

③排膿散及湯の投与で自然排膿に至った化膿性リンパ節炎の2例

谷 知行

④2016年3月～5月に経験した侵襲性肺炎球菌感染症の流行

新井 啓

追加) 非紹介患者初診加算料について

吉田 宏

3) 最近の抄読会から

田中 岳

第97回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成28年10月27日（木曜日）

内容：

1) 平成28年7月から9月までの紹介患者経過報告

幾瀬 樹

2) トピックス

①脳低温療法開始後1年間の治療成績

田中 岳

②思春期早発症を契機として診断された卵巣腫瘍の1例

新井 啓

③小児におけるアシクロビル静脈内投与と腎障害に

〔薬 局〕

注意すべき薬剤等について

鎌田敬志、富樫敦子

平成28年度看護部新採用者研修会

(2016年4月8日)

オピオイドの使用についてのあれこれ 当院で発生した事例をもとに

高橋直子

緩和ケア入門講座

(2016年7月7日)

認知症に関係する薬

五十嵐康郎

認知症ケアチーム研修会

(2016年7月27日)

薬局 抄読・勉強会

2016年1月13日

Association between use of warufarin with common sulfonylureas and serious hypoglycemic evnts:retrospective cohort analysis.

(BMJ2015 ; 351: h 6223doi:10.1136/bmj. h 6223)

五十嵐康郎

2016年2月10日

Effect of PPI(rabeprazole) on reflux esophagitis after total gastrectomy.

(Hepatogastroenterology 2011 ; Sep-Oct;58 110-111:1574-1579)

吉田 諒

2016年4月13日

Zika Virus Associated with Microcephaly.

(N Engl J Med 2016;374 ; 951-958)

庄司知摩

〔栄 養 科〕

終末期の食事・栄養のすすめ方

鶴岡市立荘内病院

緩和ケアチーム 富樫博子

緩和ケア入門講座

(2016年5月19日)

2016年6月8日

Benzodiazepine use and risk of incident dementia or cognitive decline:prospective population based study.

(BMJ 2016;Feb 2;352:i90.doi:10.1136/bmj.i90)

清野由利

2016年7月13日

ノボラピッド30ミックス注フレックスペンからライゾデグ配合注フレックスタッチへ切り替え説明直後の患者アンケート調査

鎌田敬志

2016年9月14日

Nivolumab versus Everolimus in Advanced Renal-Cell Carcinoma.

(N Engl J Med 2015 ; 373 : 1803-1813)

阿部和人

2016年10月13日

Duraqtion of Infant Protection Against Influenza Illness Conferred by Maternal Immunization

(JAMA Pediatr.2016;170(9):840-847)

五十嵐昌美

2016年11月9日

Systemic Inflammatory Response Syndrome Criteria in Defining Sever Sepsis

(N Engl J Med 2015 ; 372 : 1629-11638)

富樫敦子

2017年12月15日

Acetaminophen for Fever in Critically Ill Patients with Suspected Infection

(N Engl J Med 2015 ; 373 : 2215-2224)

田中大輔

〔看護部〕

平成28年度看護部研修会

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月1日(水)	・病院施設見学
		4月4日(月)	・看護部教育計画と新採用者教育について 講師：教育委員長 看護係長 船見 美和子 ・看護部長講話：看護部長 佐藤 さゆり ・講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長 鈴木 郁 ・講義：「看護師としての倫理とは」 講師：倫理委員長 看護主査 高橋 深雪
		4月5日(火)	・S-HIS 看護システムについて ・講義：「外来から入院までの流れ」 講師：統括看護主幹 丸山 邦 ・講義：「看護システム（記録）について」 講師：看護記録委員長 看護主査 奥井 麻里 ・講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録委員会 看護主任 本間 千春 ・講義：「看護必要度について」 講師：看護記録委員会 看護係長 五十嵐 君花 ・演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録委員
		4月7日(木)	・講義：医療事故予防対策について 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・講義：「医療機器の安全な取り扱い方」 講師：集中治療センター 看護主任 三浦 良哉
		4月8日(金)	・講義：「当院の地域医療連携室について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 ・講義：「安全に輸血を行うために -当院の輸血手順-」 講師：輸血療法委員 統括看護主幹 佐藤 順 ・講義：「糖尿病治療の薬物療法」 講師：薬剤専門員 鎌田 敬志 ・講義：「点滴時間に注意する薬剤について」 講師：主任薬剤師 富樫 敦子
		4月11日(月)	・講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 感染リンクナース 本間 未希 阿部 希
		4月15日(金)	・採血・注射技術研修 講師：看護業務委員（手順）教育委員 ・講義：「注射の安全について」 講師：看護主任 佐藤 めぐみ ・講義：「注射の業務マニュアル」 講師：看護主任 佐藤 めぐみ ・講義：「血糖測定について」 講師：看護係長 高橋 美恵 ・講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：看護主任 釘持 有紀子 ・講義：「採血・静脈注射について」 講師：看護主任 亀井 由佳

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採用者研修		・採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習
		4月18日(金)	・講義・演習「スキンケア」 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護係長 梅本 貴子 ・講義：「安全な移動と体位」 講師：PT 瀬尾 章央
		4月20日(水)	・講義・実技演習：「導尿の仕方の看護援助」 講師：教育委員会 看護主任 丸山 リカ 看護主任 叶野 明子 看護係長 三浦 栄子 ・講義：「食事介助・マウスケア・摂食・嚥下について」 講師：NST委員会 NST専従看護師 看護係長 井上 裕子 リハビリST 五十嵐 知依 歯科口腔衛生士 石垣 佑美 ・講義：「ワークライフバランスについて」 講師：kaeru委員会 看護主幹 上野 雅恵
		6月9日(木)	・講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：臨床心理士 柏倉 貢 ・演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員 ・講義・演習：「胃瘻・腸瘻について」 講師：NST専従看護師 看護係長 井上 裕子 看護係長 秋野 博子 NST委員会 富樫 悠奈 佐藤 拓也 富樫 敦子
		6月23日(木)	出張 新人研修Ⅰ 社会人基礎力 社会人として看護職として身につけたい能力
		8月30日(火)	出張 新人研修Ⅱ 医療安全と感染防止 リスク感性を磨こう
		11月16日(水)	出張 新人研修Ⅲ ファイナル 自分の道を一歩ずつ歩もう
		7月14日(木)	・講義：「体位変換・除圧・皮膚観察」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 佐藤 南
		9月9日(金)	・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		9月23日(金)	・2年目ナースからのメッセージ：立里 千咲 大矢 さくら ・グループワーク『明日からの看護実践にどう活かしていくか』
		10月4日(火)	・講義：「緩和ケアの基礎」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		10月27日(木)	・講義：「ケアに活かすための感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		11月10日(木)	・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室看護主査 富樫 清 ・講義：「医療従事者に必要な安全対策の基本」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		平成29年 2月7日(火)	1年の振り返り研修 ・レポート発表 『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 ・先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース：水口 一絵 中堅ナース：井上 京子 リーダーナースⅠ：奥山 浩也 リーダーナースⅡ：菅原 知 ・グループワーク『2年目ナースとしての取り組み』
		既卒新採用者	平成29年 2月7日(火)

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	既卒新採用者		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の飛び級制度についての説明 ・フリートーク『今年度受講した研修についての意見交換』
	新採指導者研修	4月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：教育委員長 看護係長 船見 美和子 ・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 佐藤 早苗 ・新採用者との企画について
		5月24日(火)	出張 実地指導者研修 -成長しようプリセプター・楽しもう新人育成-
		6月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		7月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修1G 講義「相手を知ることからはじめよう」 ・3ヶ月の振り返り ・事例を通してのグループワーク
		10月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修2G ・グループワーク「6ヶ月の振り返りと自らモチベーションを上げる工夫、オリジナルで実践していること」 ～ファシリテーター 教育担当係長～ ・講義「みんなで新人を育てよう」 ・演習 コミュニケーション演習・Iメッセージ
		平成29年 2月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返り研修 成果発表会『1年間の指導を振り返って』 ・グループワーク 『1年間を振り返り、部署における新人看護師の教育について考える』
	教育担当者研修	4月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：教育委員長 船見 美和子 ・講義：「教育担当者の取り組みの実際について 調査報告」 講師：教育委員 看護係長 阿部 仁美
		6月13日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』1G
		7月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> (指導者をフォロー・サポートするための研修実践1G) 新採指導者へ ・3ヶ月の振り返り ・事例を通してのグループワーク ～ファシリテーター 教育担当係長 ～
		7月21日(木) 7月22日(金)	出張 部署教育担当者研修 -新人を育てるサポート体制-
		9月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』2G
		10月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> (指導者をフォロー・サポートするための研修実践2G) 新人指導者へ 「6ヶ月を振り返り今後の指導について考える」 ・グループワーク「6ヶ月の振り返りと自らモチベーションを上げる工夫、オリジナルで実践していること」 ～ファシリテーター 教育担当係長～ ・講義「みんなで新人を育てよう」 ・演習 コミュニケーション演習・Iメッセージ
		平成29年	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	教育担当者研修	2月17日(金)	『教育担当者としての1年を振り返って－企画研修を実践して－』
		平成29年 3月28日(火)	・年間計画(新採用者・2年目ナース・指導者)の説明 担当:教育委員長 看護係長 船見 美和子 教育委員 看護係長 阿部 仁美
	2年目ナース研修	4月14日(木)	・2年目ナース研修年間計画についての説明 講師:教育委員 成澤 知美 ・講義:「2年目ナースの役割と心得・メンバーシップとは」 講師:教育委員 看護係長 成澤 知美 ・グループワーク『2年目ナースとして求められること』
		5月24日(火)	・講義:「褥瘡ケア・予防対策・演習」 講師:皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 ・講義:「痛みの定義・疼痛治療の5原則・WHO3段階除痛ラダー・オピオイドの種類の副作用とその対策」 講師:緩和ケア認定看護師 看護主任 上林沙希子 阿部美知子
		7月22日(金)	・講義:「2年目の医療安全について」 講師:NICU・GCU 看護係長 金子 弘美 ・講義:「フィジカルアセスメント」 講師:集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		10月3日(月)) 10月19日(水)	・臨床研修(集中治療センター、手術センター) 1) 手術中の全身管理と看護 2) 基本的な看護技術・フィジカルアセスメント等を習得する 3) 術後の全身管理、輸液、輸血管理、輸液ポンプ管理・ドレーン管理 4) 急性期における疾患患者の基本的看護
		11月1日(火)	・講義:「フィッシュ!哲学」 講師:集中治療センター 看護係長 斎藤 真紀 ・講義:「アサーティブコミュニケーション」 講師:NICU・GCU 看護主査 高橋 深雪 ・ナラティブ「心に残った看護体験を書いてみよう」
		平成29年 2月2日(木)	・実践レポート発表「後輩育成に活かす自分の役割」 ・3年目へ向けての決意表明・発表
		3年目ナース研修	4月14日(木)
	7月19日(火)		・講義:「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師:教育委員会 看護主任 伊藤 智子 ・講義:「問題解決能力について」 講師:教育委員会 看護係長 成澤 知美 ・実践:カテゴリー化 グループワーク「チーム活動で悩んでいることを解決していくためには」
	8月9日(火)		出張 高齢者看護Ⅱ スキンケア ー褥瘡発生を予防するためにー
	9月8日(木)		・講義:「3年目の医療安全について」 講師:NICU・GCU 看護係長 金子 弘美 ファシリテーター:医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・事例研究について 担当:教育委員 看護係長 成澤 知美
	12月16日(金)		・講義:「リスクアセスメント・褥瘡アセスメント・創傷管理・演習」 講師:皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
	平成29年 1月13日(金)		・事例研究発表 ・グループワーク「事例研究を通し、より良い看護実践にむけた今後の課題」

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役 割 研 修	中堅ナース研修	4月18日(月)	・中堅ナース研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護主任 三浦 良哉
		6月8日(水)	・講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：4階東入院棟 看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		8月20日(火)	出張 中堅看護師が元気になるために一大切なわたし、大切なあなた-
		9月13日(火)	・講義：「荘内病院のチーム医療体制」 講師：看護副部長 原田 あけみ ・講義：「退院支援について」 講師：看護係長 梶谷 まゆみ
		10月25日(火)	出張 救急看護 -急変時一歩踏み出す対応-
		11月9日(水)	・講義：「成人学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 伊藤 琴 ・グループワーク「後輩を育てるためにできること」
		平成29年 1月30日(月)	・1年の振り返り 実践レポート発表「医療チームの一員としての自部署における自分の役割」 グループワーク「これからの自己の役割」
	リーダーナース研修Ⅰ	4月18日(月)	・リーダーナースⅠ研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護主任 三浦 良哉 ・看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 講師：看護研究委員長 看護主査 押井 あけみ ・看護研究 研究の倫理的配慮について 講師：看護研究委員 ・看護研究 研究計画書の書き方 講師：看護研究委員 ・看護研究 文献検索について 講師：看護研究委員
		5月29日(木)	・講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：医療安全管理室 看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子
		7月6日(水)	・講義：「荘内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 土屋 清光 ・講義：「看護管理とリーダーシップ」 講義：看護部長 佐藤 さゆり
		9月2日(金)	・講義：「看護倫理問題とその対策について」 講師：倫理委員長 NICU・GCU 看護主査 高橋 深雪
		平成29年 1月26日(木)	・看護研究発表 ・グループワーク『研修を通して学んだこと、今後の自己の役割』
		リーダーナース研修Ⅱ	4月19日(月)
	6月14日(火)		・講義：「職場で活かす業務管理のポイント」 講師：看護副部長 鈴木 郁 ・講義：「働く職業人としての役割モデル」 講師：看護係長 三浦 栄子
	7月8日(金)		・講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：医療安全管理室 看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順
	10月24日(月)		・講義：「看護倫理とクレーム対応について」 講師：看護副部長 佐藤 喜恵

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役割研修	リーダーナース研修Ⅱ	平成29年 1月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の成果発表 (パワーポイントでプレゼンテーション) 「各自の成果と課題」 ・発表『研修を通して学んだこと』
全体研修	看護研究	11月18日(金)	部署の看護研究発表 1回目
		11月25日(金)	部署の看護研究発表 2回目
	看護学会報告	12月1日(金)	院外投稿看護学会発表 研究発表会
専 門 研 修	専門分野研修	5月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント研修会 第1回目 「フィジカルアセスメント①呼吸」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		6月1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会 第1回 「緩和ケアについて」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		6月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理ベーシックコース研修会 第1回 「標準予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		6月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第1回 「即実践！科学で考えるスキンケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		6月10日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント研修会 第2回目 「中枢神経・腹部のアセスメント」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		6月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理ベーシックコース研修会 第2回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		6月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会 第2回 「がんの痛みも怖くない」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		6月30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第2回 「やさしくわかるストーマケアのポイント」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		7月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法看護研修会 第1回目 「抗がん剤の安全な取り扱い方法と投与管理」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		7月6日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理ベーシックコース研修会 第3回 「血流感染&尿路感染防止のための看護ケア」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		7月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント研修会 第3回目 「中枢神経系・腹部」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		7月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法看護研修会 第2回目 「血管外漏出のリスクアセスメントと対応方法」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		7月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第3回 「はじめよう失禁ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		7月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会 第3回 「精神症状の治療とケア」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
			8月3日(水)

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修	専門分野研修		「フィジカルアセスメント」 講師：糖尿病看護認定看護師 宅井 さやか
		9月5日(水)	・クリティカルケア研修会 第1回目 「ABCDEアプローチに沿った急変対応」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月9日(金)	・創傷ケア研修会 第1回目 「手術部位感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香
		9月13日(火)	・慢性期ケア研修会 第1回目 「糖尿病患者の事例」 講師：糖尿病看護認定看護師 宅井 さやか
		9月16日(金)	・がん看護研修会 第1回目 「がん患者の症状マネジメント/がん週末期における皮膚排泄ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		9月21日(水)	・新生児・小児急性期ケア研修会 第1回目 「新生児・小児急性期ケア①」 講師：新生児集中ケア認定看護師 看護主任 和田 美枝
		10月4日(火)	・クリティカルケア研修会 第2回目 「患者の問題を明らかにして問題解決するための患者のプロセス」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		10月12日(金)	・創傷ケア研修会 第2回 「胃瘻の管理と看護ケア/ドレーン管理」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉 講師：NST専門療法士 石井 佳
		10月14日(金)	・新生児・小児急性期ケア研修会 第2回目 「新生児・小児急性期ケア②」 講師：新生児集中ケア認定看護師 看護主任 和田 美枝
		10月17日(月)	・慢性期ケア研修会 第2回目 「感染症例から考える」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		10月21日(金)	・がん看護研修会 第2回目 「再発・転移時の心理的支援」 講師：乳がん認定看護師 竹内 梨紗
		11月8日(火)	・クリティカルケア研修会 第3回目 「感染と栄養」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		11月11日(金)	・創傷ケア研修会 第3回 「エビデンスのある創傷ケアの実践」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		11月14日(月)	・慢性期ケア研修会 第3回目 「アドバンスド排泄ケア 個別性を重視した排泄ケアの追及」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		11月15日(火)	・新生児・小児急性期ケア研修会 第3回目 「発達段階に応じたフィジカルアセスメント」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		11月28日(月)	・がん看護研修会 第3回目 「疼痛アセスメント」

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修	専門分野研修		講師：緩和ケア理認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		12月7日(水)	・創傷ケア研修会 第4回 「足を見る、診る フットケアに必要な基礎」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		12月9日(金)	・クリティカルケア研修会 第4回目 「総まとめ&α」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		12月12日(月)	・慢性期ケア研修会 第4回目 「高齢者と認知症」 講師：認知症ケア認定看護師 富樫 千代美
		12月14日(水)	・新生児・小児急性期ケア研修会 第4回目 「新生児・小児急性期ケア④」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		12月19日(月)	・がん看護研修会 第4回目 「事例検討」 講師：乳がん認定看護師 竹内 梨紗
看 護 補 助 者 研 修	看護補助者研修	4月22日(金)	・年間計画の周知、病院の理念、基本方針 講師：看護主幹 斉藤百美 ・接遇、倫理面、守秘義務 講師：看護部倫理委員長 看護主査 高橋深雪 ・医療安全 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・感染対策 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		7月8日(金)	・褥瘡対策について 円背・拘縮・麻痺と体位変換・除圧 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 褥瘡対策リンク看護師
		10月13日(木)	・接遇について ビデオを当しての学びとロールプレイ 講師：倫理委員長 看護主査 高橋 深雪
		12月11日(金)	・感染対策について 事例を通して 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 ・医療安全について インシデント事例から 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順

□ 3年目ナース研修 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
円背患者が牽引台で手術を受ける際の体位固定についての考察	手術センター 千葉 一人
帝王切開術を受ける患者へのアロマセラピーの活用効果	手術センター 丹 郁 美
終末期患者の思いに寄り添った効果的な援助 ー長男の結婚式出席を目指してー	6階西入院棟 今 野 里 美
告知を受けた患者への気持ちの表出を促すために効果的な援助 ー傾聴・チューニングの援助を取り入れてー	8階西入院棟 齋 藤 美 紗 子
化学放射線療法を受けた食道がん患者のQOLを支える援助	8階東入院棟 丸 山 葉 月
術前にある患者の危機的心理過程への関わり ーアギュレラの危機解決モデルから考察するー	8階東入院棟 菅 澤 杏
臍体尾部切除術を受けた患者のコーピング行動を踏まえた不安軽減への援助	8階東入院棟 前 田 英 里 香
急性心筋梗塞患者の継続した自己管理に向けた退院指導	7階西入院棟 鈴 木 香 澄
プロセスレコードを用いて患者との関わりを振り返る ーペースメーカー埋め込み術を受ける患者との関わりを通してー	7階西入院棟 藤 原 真 央
チーム医療を意識した高齢者の栄養状態改善に向けた関わり	7階西入院棟 水 口 一 絵
癌性疼痛のある患者へペインチャートを用いた一考察	7階東入院棟 大 谷 鈴 乃
癌再発患者の心理過程の分析と時期に応じた看護介入 ープロセスレコードを用いてー	6階西入院棟 寒 河 江 紬
慢性腎不全患者へのSCAQを用いた看護援助の振り返り	6階西入院棟 菅 原 咲 菜
意識障害のある患者の機能的口腔ケアを試みて ー唾液腺マッサージを取り入れてー	6階東入院棟 的 場 か お り
BPSDを伴う認知症患者への非薬物療法実施による効果について ーバリデーション療法を用いたプロセスレコードの分析を行ってー	6階東入院棟 亀 井 栄 子
飲水行動が困難な患者への関わりを通して ー飲水への援助方法を考えるー	5階西入院棟 鈴 木 美 穂
高齢者のセルフケア意欲に繋がる関わり	5階西入院棟 安 野 沙 也 佳
ギブス固定患者への効果的な退院指導 ーパンフレットを用いた効果的な指導法ー	5階東入院棟 川 妻 透 子
高齢者への効果的なコルセット着用方法の指導 ーパンフレットを用いての関わりー	5階東入院棟 川 口 奈 々
化学療法を受ける患者の看護 ー副作用に関するパンフレットを用いた患者支援を通してー	4階西入院棟 丸 山 美 也 子
小児における手術後の疼痛緩和援助 ーラザルスのストレス・コーピング理論を用いての考察ー	4階東入院棟 渡 部 愛
初回熱性痙攣で緊急入院となった患児の家族の心理的状況 ー不安なく退院できるまでの援助についてー	4階東入院棟 本 多 亜 未

□リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研究テーマ	氏名
母親と祖父母への母乳育児継続に向けての取り組み －母乳育児サポート手帳を活用して－	4階西入院棟 佐藤 はるか
褥婦のポジショニング・ラッチオン習得に向けたスタッフへの取り組み －授乳方法のパンフレットと直接授乳観察用紙を用いたケアの見直し－	4階西入院棟 阿部 礼子
異常分娩後の褥婦にバースレビューを実施して	4階西入院棟 渡部 真希
15歳以上の小児科患者の個別性を重視した情報収集への取り組み －基本情報シートを導入して－	4階西入院棟 佐藤 佳織
整形外科患者の清潔ケアニーズに関する意識調査	5階東入院棟 清和 真貴
男性看護師による新採用者指導の現状と課題	5階東入院棟 奥山 浩也
ウロバック尿の回収ベストプラクティス遵守率の現状調査 －直接観察法を用いて－	5階西入院棟 本間 春圭
CAPD導入期の看護の統一化に向けたマニュアル作成	6階西入院棟 若生 千尋
膀胱留置カテーテル早期抜去に向けたスタッフへの関わりと課題	6階西入院棟 鈴木 大地
周術期患者の口腔環境改善に向けた取り組み －セルフケアの向上を目指して－	7階東入院棟 佐藤 晴子
当入院棟におけるがん終末期患者の体圧分散の現状と課題	8階西入院棟 本間 瑛子
早期離床支援に対する看護師の意識・行動変化 －ADL低下抑止のための定期的BI評価とカンファレンスの実施から－	8階西入院棟 長濱 恵美
手指衛生の遵守率向上への取り組み －標準予防策に対する実態調査と行動パターンの調査を行って－	集中治療センター 佐藤 舞衣
救急センターにおける小児処置に対する家族と看護師の心理 －点滴同伴処置についてのアンケート調査－	救急センター 本間 智子
歩行入室導入による看護師の意識の変化	手術センター 富樫 識成

□リーダーナース研修Ⅱ 業務改善報告発表

研究テーマ	氏名
家族の意向に沿ったペリネイタル・ロスケアを実現するための取り組み	NICU 武田 しのぶ
経管栄養中の児の口腔ケアの検討・マニュアルを作成して	GCU 齋藤 さち
小児褥瘡リスクアセスメントのスキルアップを目指して －小児独自の褥瘡管理システム入力フローを作成して－	4階東入院棟 石川 沙織
1チーム制導入後の看護体制確立に向けたリーダー業務・スタッフ業務マニュアルの作成	4階東入院棟 岡部 和歌子
中堅看護師の看護実践能力の向上を目指す取り組み	集中治療センター 加藤 幸子
チーム活動の充実を目指したリーダーとしての取り組み －職場の活性化に向けて－	集中治療センター 佐藤 知子
4点支持枕を使用した脊椎手術における皮膚保護材の検討	手術センター 菅原 知
手術センターにおける診療材料の経済的な管理に向けた取り組み	手術センター 丸山 麻衣

□看護研究院外発表

研 究 テ ー マ		氏 名	
1	<出張報告> 日本看護学会：看護管理	7階西入院棟	看護係長 小 山 千 聡
2	北日本看護学会	血液浄化療法センター	看護主任 村 田 克 子
3	日本看護研究学会	外科外来	看護係長 阿 部 里 子
4	<口演> リスクマネジメント学会 演題名：「入院棟看護師の排泄ケアに対する意識調査」	7階西入院棟	高 橋 悠 里
5	リスクマネジメント学会 演題名：「小児科における感染症マニュアルの見直しと一覧表の作成を行って」	4階東入院棟	庄 司 敦 子
6	日本創傷・オストミー失禁管理学会 演題名：「新規おむつ導入に伴う当入院棟の交換回数の変化」	8階東入院棟	佐 藤 南
7	日本緩和医療学会 演題名「緩和ケアチーム主催の患者・家族会の現状と課題」	外科外来	緩和ケア認定看護師 看護主任 上 林 沙希子
8	山形県看護研究学会 演題名：「集中治療センターにおけるPNSRに対する意識の変化」	集中治療センター	看護主任 阿 部 裕 子
9	山形県看護研究学会 演題名：「食べる・目覚める・肺炎予防に繋げる積極的な口腔ケアの実施」	医療安全管理室	NST専従看護師 看護係長 井 上 裕 子

V 各診療科別および 各部門別の臨床統計

1. 循環器科

2016年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2016年	2015年	2014年	2013年
診断カテーテル検査	108	104	158	183
冠動脈形成術 PCI	71(43)	65(41)	74(44)	108(58)
血管内超音波検査	73	66	72	97
末梢血管形成術 PTA	0	1	6	11
ペースメーカー植え込み、交換	57	55	65	73
カテーテル焼灼術	0	0	1	1
下大静脈フィルター	2	0	8	8
IABP	8	2	3	8
PCPS	0	0	0	0
合計	319	293	387	489

() 緊急PCI

表2. 非侵襲的検査

	2016年	2015年	2014年	2013年
心エコー検査	2,750	2,611	2,207	2,623
ホルター心電図	267	236	276	234
トレッドミル運動負荷試験	116	125	98	104
PWV	101	68	142	240
心筋シンチグラフィー	36	41	16	26
冠動脈CT	164	152	125	166
心臓MRI	4	7	1	5

表3. 入院治療

	2016年	2015年	2014年	2013年
退院患者数	1,029	983	1,058	1,108

2. 呼 吸 器 科

	2016年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	18	500	44	9
2月	12	437	42	10
3月	11	495	56	14
4月	13	456	40	5
5月	19	403	32	3
6月	28	460	44	8
7月	18	552	45	9
8月	20	470	40	13
9月	18	521	39	4
10月	21	509	40	4
11月	20	436	33	8
12月	17	499	41	7
計	215	5,738	496	94

3. 一般外科手術症例

(2016年1月1日～12月31日)

1 手術総数	予定手術	393 (83.8%)
	緊急手術	75 (16.8%)
	計	468

2 麻酔法別手術	全身麻酔	371 (79.3%)
	腰椎麻酔	39 (8.3%)
	局所麻酔	58 (12.4%)
	計	468

3 手術468症例の内訳

手術術式

1) 頸部疾患

甲状腺癌	7	甲状腺悪性腫瘍手術（広汎切除）	7
甲状腺腫	9	甲状腺悪性腫瘍手術（単純切除）	1
副甲状腺腫	1	甲状腺切除術（片葉）	3
頸部腫瘍	1	甲状腺部分切除	5
バセドウ病	1	副甲状腺腫瘍摘出術	1
計	19	その他	2
		計	19

2) 乳腺疾患

乳癌	33	腫瘍・腫瘍摘出術	7
乳腺腫・良性腫瘍	9	単純乳腺切除術	1
計	42	腋窩郭清	1
		胸筋温存乳房切除+腋窩郭清	4
		胸筋温存乳房切除(+センチネルリンパ節生検)	11
		乳房温存手術+腋窩郭清	2
		乳房温存手術+(+センチネルリンパ節生検)	16
		計	42

3) 食道疾患

食道癌	2	食道悪性腫瘍手術（胸腔鏡下）	0
食道裂孔ヘルニア	1	食道悪性腫瘍手術（開胸）	1
計	3	噴門側胃切除+胸腔内吻合	1
		食道裂孔ヘルニア手術（経腹）	1
		計	3

4) 胃・十二指腸疾患

胃癌	39	胃悪性腫瘍手術（広汎切除）	17
残胃癌	1	胃悪性腫瘍手術（単純切除）	3
		胃悪性腫瘍手術（広汎全摘）	7
十二指腸狭窄	1	胃悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）	6
胃・十二指腸潰瘍穿孔	3	残胃全摘	1
出血性十二指腸潰瘍	0	胃空腸吻合術	6
計	44	大網充填術	3
		試験開腹	1
		計	44

（胃癌・胃悪性腫瘍 40）

5) 小腸疾患（イレウス除く）

小腸腫瘍	2	小腸部分切除	9
クローン病	2	腹腔鏡補助下小腸部分切除	1
小腸壊死	2	計	10
小腸穿孔	1		
小腸狭窄	1		
腹部刺傷	1		
腹腔内膿瘍	1		
計	10		

6) 結腸・直腸・肛門疾患

① 結腸

盲腸癌	9	結腸切除術（亜全摘）	1
虫垂癌	2	結腸切除術（悪性腫瘍）（単純切除）	8
上行結腸癌	7	結腸切除術（悪性腫瘍）（広汎切除）	17
右結腸曲癌（肝弯曲）	1	結腸切除術（小範囲切除）（開腹）	10
横行結腸癌	10	結腸単純縫合術	1
左結腸曲癌（脾弯曲）	0	結腸切除術（悪性腫瘍）（腹腔鏡下）	9
下行結腸癌	5	結腸切除術（小範囲切除）（腹腔鏡下）	2
S状結腸癌	8	汎発性腹膜炎手術（腹腔内貯留膿汁処置および排膿誘導）	1
計	42	結腸切除術（結腸半側切除）	1
		計	50

両性狭窄	1
憩室穿孔	4
人工肛門形成状態	2
縫合不全	1
S状結腸軸捻転	1
吻合部狭窄	2
計	11

② 直腸

直腸S状部癌	3	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（高位）	2
直腸癌	13	腹腔鏡下直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（高位）	3
直腸悪性黒色腫	1	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（低位）	4
計	17	腹腔鏡下直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（低位）	2
		直腸悪性腫瘍手術（広汎切斷）	1
直腸脱	1	直腸切斷術（腹腔鏡下）	3
直腸異物	1	Hartmann 手術	3
直腸腔瘻	1	直腸腫瘍摘出術（経肛門）	2
計	3	計	20

③ 肛門

肛門癌	2		
良性腫瘍	1	肛門良性腫瘍切除術	1
肛門周囲膿瘍	3	肛門悪性腫瘍手術一切除	2
肛門出血	1	人工肛門造設術	8
肛門裂傷	1	人工肛門閉鎖術	2
内痔核	0	直腸脱手術（経肛門）	1
計	8	肛門周囲膿瘍切開術	3
		肛門拡張術	1
（大腸癌・悪性腫瘍 61）		計	18

7) 肝臓疾患

肝細胞癌	4	肝亜区域切除	1
転移性肝腫瘍	6	外側区域切除	1
肝門部胆管癌	2	肝切除術（1区域切除）	1
肝外傷	6	肝悪性腫瘍ラジオ波凝固術（経皮的）	1
計	18	肝周囲パッキング除去術	4
		肝切除術（部分切除）	6
		肝門部胆管癌切除術（血行再建なし）	2
		肝損傷止血術	2
		計	18

8) 胆道・膵・脾疾患

① 胆道

胆管癌（下部）	3	膵頭十二指腸切除術（リンパ節郭清を伴う）	10
総胆管結石	0	膵頭十二指腸切除術（周辺臓器の合併切除を伴う）	2
胆嚢ポリープ	4	膵中央切除術	1
胆嚢管癌	1	膵体尾部切除	5
閉塞性黄疸	1	膵全摘	1
胆石症	32	膵管空腸吻合	1
計	41	腹腔鏡下脾臓摘出術	1
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	33
		胆嚢摘出術	3

② 膵臓		胆嚢悪性腫瘍手術	1
		総胆管碎石術（開腹）	0
膵頭部癌	9	総胆管十二指腸吻合	1
膵体部癌	8	計	59
ファーター乳頭部癌	2		
膵管内乳頭粘液性腫瘍	1		
膵損傷	1		
膵癌術後再発	1		
計	22		
③ 脾臓			
脾腫瘍	1		
計	1		
9) イレウス			
癒着性イレウス	7	癒着剥離術	6
絞扼性イレウス	8	小腸部分切除術	9
計	15	計	15
10) 腹膜・後腹膜			
大網GIST	1	大網切除	1
腹腔内腫瘍	1	開腹止血術	3
腹腔内出血	3	骨盤内腫瘍切除	1
腹腔内膿瘍	3	腹腔内ドレナージ	3
計	8	計	8
11) 虫垂疾患			
急性虫垂炎	14	腹腔鏡下虫垂切除術（簡単）	17
反復性/慢性虫垂炎	17	腹腔鏡下虫垂切除術（複雑）	4
虫垂カルチノイド	1	虫垂切除術（開腹）	9
計	32	回盲部切除	1
		結腸切除術（小範囲切除）（腹腔鏡下）	1
		計	32
12) ヘルニア			
鼠径ヘルニア	65	ヘルニア修復術	78
大腿ヘルニア	5	上記以外	3
閉鎖孔ヘルニア	4	計	81
腹壁癒痕ヘルニア	4		
内ヘルニア	1		
会陰ヘルニア	1		
膺ヘルニア	1		
計	81		

13) CVポート/カテーテル関連			
悪性腫瘍関連	27	CVポート挿入	26
感染/位置異常等	7	CVポート抜去	5
計	34	CAPD抜去	2
		硬膜外カテーテル挿入留置	1
		計	34
14) 泌尿生殖器			
尿管遺残	2	腹腔鏡下尿管摘出術	2
卵巣癌再発	1	結腸切除術（小範囲切除）（開腹）	1
計	3	計	3
15) 体表			
リンパ節腫脹/再発	11	リンパ節生検/摘出術	9
粉瘤	2	リンパ節郭清術	1
計	13	腫瘍摘出術	3
		計	13
16) その他	1		

過去5年間の主な癌症例数の推移

	2012	2013	2014	2015	2016
胃癌	66	68	52	61	40
結腸・直腸癌	82	101	84	72	60
乳癌	37	33	44	32	33

4. 小児外科手術症例

(2016年1月1日～12月31日)

I) 手術総数		90例	
予定手術		74 (82.2%)	
緊急手術		16 (17.8%)	
腹腔鏡手術		42 (46.7%)	
II) 小児外科手術例の内訳			
病名		術式	
A) 新生児症例	5		6
1. 新生児壊死性腸炎	1	ドレナージ術 (局麻)	1
		ドレナージ術+腸管切除術	1
2. 先天性十二指腸狭窄	1	ダイヤモンド吻合術	1
3. 腸回転異常症 (incomplete型)	2	Ladd手術	2
4. Hirschsprung病	1	直腸粘膜生検 (無麻酔)	1
B) 代表的疾患			
病名		術式	
1. ヘルニア	42		
1) 鼠径ヘルニア	37		
	男 20	Potts'法	20
	女 17	LPEC法	17
2) 臍ヘルニア	4	臍ヘルニア手術	4
3) 白線ヘルニア	1	白線ヘルニア手術	1
2. 虫垂炎	11	腹腔鏡下虫垂切除術 (待期的)	11(5)
C) 部位別疾患			
病名		術式	
1. 胸部・血管疾患	4		
	4	中心静脈カテーテル挿入	4
2. 胃・十二指腸疾患	5		
1) 胃食道逆流症	3	腹腔鏡下噴門形成術+胃瘻造設 胃瘻造設術	2 1

2) 肥厚性幽門狭窄症	2	Ramstedt手術	2
3. 小腸疾患	2		
1) 腸重積症	1	腹腔鏡補助下 Hutchinsonson 手術	1
2) 癒着性イレウス	1	腹腔鏡補助下癒着剥離・小腸切除	1
4. 結腸疾患	6		
1) Hirschsprung 病	4	腹腔鏡補助下直腸 pull-through 術	4
① Recto-sigmoid type	3		
② 広範囲型 (横行結腸右側)	1		
2) 結腸穿孔 (術後)	1	人工肛門閉鎖術	1
3) Peutz-Jegheres 症候群	1	内視鏡下ポリペクトミー	1
5. 直腸・肛門疾患	4		
1) 直腸-尿道瘻孔 (鎖肛術後)	1	腹腔鏡補助下直腸 pull-through 術	1
2) 直腸ポリープ	1	経肛門的ポリープ切除術	1
3) 直腸脱	2	Gantz-三輪手術	2
6. 肝・胆道疾患	2		
1) 先天性胆道拡張症	1	胆道再建 (Roux-Y)	1
2) 特発性総胆管結石	1	ERCP	2
7. 泌尿・生殖器疾患	8		
1) 精巣	6		
① 停留精巣	4	停留精巣固定術	4
② 急性陰嚢症 (捻転)	2	捻転解除 精巣摘除	1 1
2) 尿膜管遺残	2	腹腔鏡下尿膜管切除術	2

5. 呼吸器外科

(2016年1月1日～12月31日)

手術総数：87例		●悪性胸膜中皮腫	1 (1)
全麻手術：86例		・胸膜切除生検、胸膜焼灼術	1 (1)
完全胸腔鏡下手術：67例 (77%)			
		<外傷>	
<肺悪性>	例数 (括弧内は完全 胸腔鏡下手術)	●外傷性気胸	1 (1)
		・肺部分切除術	1 (1)
●原発性肺癌	43 (36)	●胸部刺創	1
・肺葉切除術	15 (11)	・創洗浄 縫合	1
・肺区域切除術	24 (21)	●胸骨骨折	1
・肺部分切除術	4 (4)	・整復、プレート固定	1
●転移性肺腫瘍 (乳癌2)	2 (2)		
・肺区域切除術1 (1)		<その他>	
・肺部分切除術1 (1)		●呼吸不全	9
		・気管切開	9
<肺良性>		●リンパ節腫大	2
●良性肺腫瘍	2 (2)	・頸部リンパ節切除生検	1
(IgG4関連肺疾患1、孤立性線維性腫瘍1)		・縦隔リンパ節切除生検、 肺部分切除	1 (1)
・区域切除術	1 (1)		
・部分切除術	1 (1)	●術後合併症(肺静脈共通幹)	1 (1)
●炎症性	4 (4)	・肺葉切除術	1 (1)
(アスベルギローマ2、類上皮肉気腫1、 結節性リンパ球増殖症1)			
・肺葉切除術	3 (3)		
・区域切除術	1 (1)		
●嚢胞性肺疾患 (自然気胸 15)	15 (15)		
・ブラ切除術	15 (15)		
<縦隔>			
●縦隔腫瘍 (胸腺腫 3、胸腺嚢腫 1)	4 (3)		
・胸腺切除術	4 (3)		
<胸壁・胸膜>			
●急性膿胸	1 (1)		
・膿胸腔搔爬術	1 (1)		

6. 整 形 外 科

(2016年1月1日～12月31日)

臨床統計

2016年 整形外科手術件数	1,234件
大腿骨近位部骨折手術	218件
橈骨遠位端骨折	71件
脊椎手術	141件
人工関節手術	58件
関節鏡手術	70件
など	

7. 産婦人科

産婦人科手術	総数	257		
(平成28年1月～12月)			産科手術	総数 109
子宮手術		91	帝王切開	82
子宮摘出	56		緊急帝王切開	37
子宮悪性腫瘍	8		選択的帝王切開	45
子宮筋腫	30 (腹腔鏡下 12)		頸管縫縮術	4
子宮内膜症	6 (腹腔鏡下 2)		流産手術	7
子宮頸部異形成上皮	0 (腹腔鏡下 0)		人工中絶	5
子宮脱	7		子宮外妊娠手術	5(腹腔鏡下 1)
その他	5 (腹腔鏡下 0)		その他	6
子宮筋腫核出	13 (腹腔鏡下 3)			
子宮頸部円錐切除	18		分娩件数	236
その他	4			
付属器(卵巣・卵管)手術		52		
悪性腫瘍	2			
良性腫瘍	37 (腹腔鏡下 16)			
子宮内膜症	10 (腹腔鏡下 7)			
卵巣出血	0			
その他	3 (腹腔鏡下 1)			

産婦人科月別外来患者数

(平成28年1月～12月) 単位：人

月	新患者数	再来患者数	計
1月	34	640	674
2月	41	631	672
3月	39	758	797
4月	39	684	723
5月	35	627	662
6月	55	641	696
7月	32	669	701
8月	46	599	645
9月	40	654	694
10月	28	616	644
11月	40	645	685
12月	45	633	678
計	474	7,797	8,271

産婦人科月別入院患者数

(平成28年1月～12月) 単位：人

月	入院患者数	退院患者数	延べ入院患者数
1月	47	43	597
2月	54	54	642
3月	45	46	603
4月	52	55	638
5月	46	45	549
6月	53	49	681
7月	42	50	536
8月	51	48	553
9月	43	45	468
10月	55	46	569
11月	44	47	618
12月	48	52	665
計	580	580	7,119

8. 小児科 (NICU)

平成28年の小児科NICU入院数は158例で、前年並みの入院数を維持していた。出生体重別入院数は、500～999gが2例、1000～1499gが13例、1500～1999gが18例、2000～2499gが36例、2500g以上が89例で、極低出生体重児の入院が前年に比し多かった。死亡退院は2例で、在胎23週6日、718gで出生した超低出生体重児の男児が特発性消化管穿孔で、在胎39週3日、3570gで出生したPotter症候群の女児が呼吸不全でそれぞれ死亡した。

出生場所については院内出生が142/158(89.9%)、院外出生が16/158(10.1%)で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち24/142(16.9%)が母体搬送症例で、これは例年の2/3程度と少なかったが、北庄内からの母体搬送は10例で例年の2倍程度に増加し、新生児搬送も3例と多かった。ハイリスク妊娠が多いため83例に帝王切開が実施されていて、入院児に対する帝王切開の割合は58.5%(83/142)で、例年通り高率だった。また人工呼吸管理症例は17/158(10.8%)で前年並みであったが、最近のNCPAPの活用により人工呼吸

管理症例は以前より減っている印象がある。新生児外科症例は十二指腸膜様狭窄、腸回転異常症、腸回転異常症+横行結腸穿孔、ヒルシュスプルング病の4例で、全例当院で手術を行った。新生児搬送症例は2例で、山形大学病院に搬送した開放性脊髄膜瘤は救急車で、新潟大学病院に搬送した新生児仮死による急性心不全はヘリコプターで、それぞれ搬送した。

最後に、平成27年11月より新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法が当院でも実施可能になり、昨年度は4例に低体温療法を実施した。全例が院外出生であったが、迅速な新生児搬送とNICUスタッフ間の事前シミュレーションの成果により、生後6時間以内に全例低体温療法を開始することができた。全例が生存退院したが、うち1例が重度の後遺症を残した。後遺症を残した症例は血中乳酸値が著明に高値で、かつ高乳酸血症が遷延していた。また脳室内出血や新生児遷延性肺高血圧症のため、2例が途中で低体温治療を断念した。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	2	1
1000 ～ 1499g	13	0
1500 ～ 1999g	18	0
2000 ～ 2499g	36	0
2500g ～	89	1
計	158	2

9. 小 児 科

小児科 (2016年度統計)

2016年度に4階東病棟(4東病棟)に入院した患者数は1,155名(男児625名、女児530名)であった。

表1に各疾患群別の入院患者数の年次推移を示す。特定のウイルス感染症の大規模な流行がなく、同様の傾向にあった昨年度と各疾患群の患者数に顕著な変化は見られなかった。小児科専門病棟としての機能充実のために2015年度より各種検査入

院、日中一時支援事業(レスパイト入院)を開始し、検査入院患者については昨年よりも増加を認めた。当科では、更なる専門性向上、安全な医療の提供とともに在宅慢性患者の家族支援にも力を入れており、今後も検査、レスパイト入院などの新たな分野について充実させてゆく方針である。ICU入院患者および後述する4階西病棟入院の小児科患者はそれぞれ21名、24名であったが本統計には加えていない。

表1. 小児科入院患者の疾患別分類(4東病棟)

疾患群	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2015年度
呼吸器感染症	388	496	397	319	377	378
消化器疾患	94	215	110	101	168	142
気管支喘息	175	196	126	66	217	169
神経疾患	113	122	147	139	163	182
その他の感染症	46	50	46	51	58	43
腎・泌尿器疾患	22	27	27	40	21	39
川崎病	22	12	23	14	11	18
内分泌・代謝疾患	11	12	13	8	6	4
アレルギー・免疫疾患	10	10	18	19	48	30
血液・腫瘍性疾患	6	9	6	6	4	7
事故	11	8	7	8	19	11
循環器疾患	4	4	2	5	10	4
心身症	7	0	2	3	1	4
その他	10	13	13	39	42	37
検査入院	0	0	0	0	46	77
レスパイト入院						10
合計(人)	919	1,174	937	818	1,191	1,155
4階西病棟					25	24
ICU					24	21

図1に月別の入院患者数の推移を示す。夏期に入院患者が減少する傾向は例年どおりであるものの、夏休みの検査入院症例が比較的多く、また冬期のインフルエンザの流行規模が小さかったため、小児科病棟としては比較的季节による入院患者数の差が比較的小さい1年であった(図の縦軸の単位は人)。

図2は年齢別の入院患者数である。2歳未満の入院が多く、これは例年と同様の傾向であった。

図3に入院時間帯別の入院患者数を示す。昨年と同様に検査入院などの予定入院患者増加のため

午前中10時、11時台の入院患者数が増加していた。21時以降の夜間入院は比較的少ない傾向にあった。

2015年7月より4階東病棟は小児専門病棟としての運営を開始した。当初は15歳未満の患者のみを対象としてきたが、小児慢性特定疾病制度(以下小慢)受給者については20歳未満であれば制度的に小児専門病棟への入院を認められる事となり、現在では15歳以上の慢性患者についても受け入れを行っている。重症な慢性疾患を持たない小児科通院患者や、20歳以上の小慢受給者については4階西病棟を主に各病棟での受け入れをお願いして

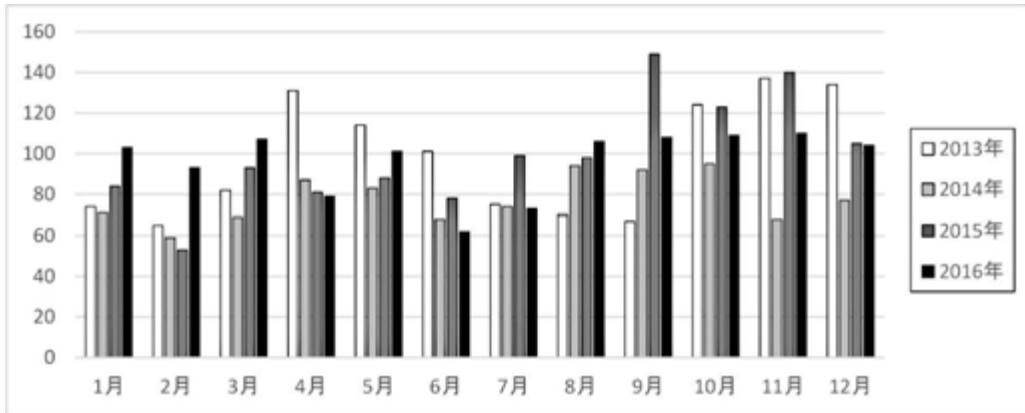


図1 月別の入院患者数の年次推移

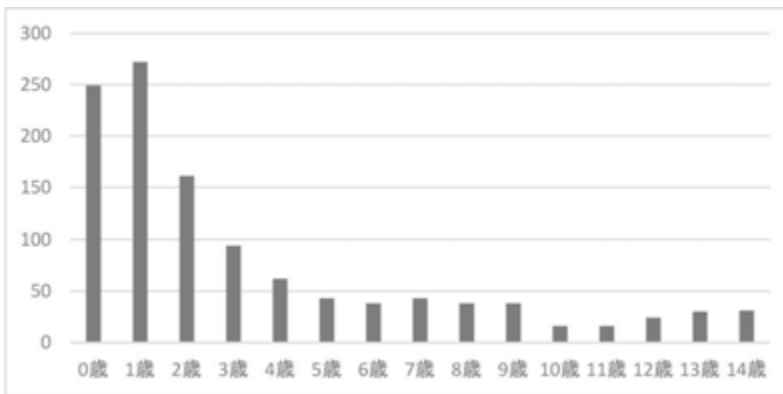


図2 年齢別の入院患者数

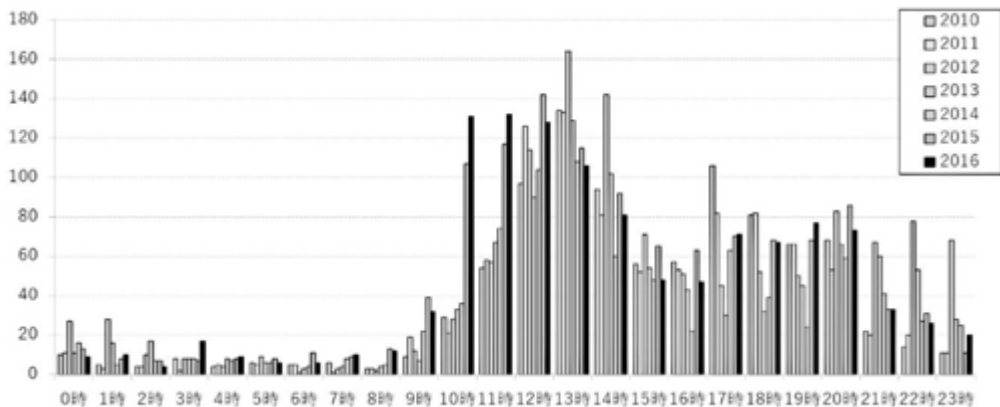


図3 入院時間別患者数の年次推移

いる。2016年度に4階西病棟に入院した小児科患者は24名、年齢は15歳から43歳であった(表1下)。他病棟にとって慣れない小児科管理入院を受けざるを得ない状況はストレスや過誤の原因となり得るであろうし、小児科と成人科間でのキャリアオー

バーも大きな問題である。どこまでを小児科で診させて頂く事が患者様にとって最良であるのかについて、院内の状況を踏まえた上で今後十分に検討すべき事項であると考えます。

10. 耳鼻咽喉科

2016年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	1
突発性難聴	1
外耳道異物	2
顔面神経麻痺	8
眩暈症	29
ギランバレー症候群	1
(鼻)	
鼻出血	4
鼻腔血管腫	3
頬部蜂窩織炎	2
(咽喉頭)	
口腔内出血	1
喉頭出血	1
急性咽喉頭炎（急性扁桃炎を含む）	5
IgA腎症（扁桃摘）	2
扁桃周囲炎+膿瘍	2
睡眠時無呼吸症候群	3
扁桃肥大（手術）	1
意識消失発作	1
計	67

2016年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	1
鼓膜切開術	1
外耳道異物摘出術	2
鼻腔血管腫切除術	3
舌腫瘍切除術	1
喉頭腫瘍切除術	1
IgA腎症 扁桃摘出術	4
口蓋扁桃摘出術	6
アデノイド切除術	2
頸部リンパ節切除術	2
計	23

11. 皮 膚 科

2016年 皮膚科外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	23	20	33	26	31	59	74	68	44	37	19	28	462
再来	219	148	153	208	171	242	233	187	177	195	149	171	2,253
計	242	168	186	234	202	301	307	255	221	232	168	199	2,715

12. 泌 尿 器 科

平成28年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件数
根治的腎摘除術	1
経尿道的尿管結石碎石術	12
体外衝撃波結石破碎術	26
膀胱全摘術	2
経尿道的膀胱癌手術	40
経尿道的膀胱結石碎石術	12
前立腺生検	65
精巣悪性腫瘍手術	1
陰のう水腫根治術	1
その他	4
計	164

13. 放射線科・放射線画像センター

〔臨床統計〕

・原疾患別放射線治療新患者数(2016年1月～12月) (単位:人)

1. 脳・脊髄 腫瘍	0	8. 婦人科腫瘍	1
2. 頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	1	9. 泌尿器系腫瘍 (うち前立腺癌)	12 5
3. 食道癌	6	10. 造血リンパ系腫瘍	0
4. 肺癌・気管・縦隔 腫瘍 (うち肺癌)	13 10	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	4
5. 乳癌	14	12. その他(悪性腫瘍)	0
6. 肝・胆・膵癌	2	13. 良性疾患皮膚ケロイド	2
7. 胃・小・結・直腸癌	5	14. (15歳以下の小児)	0

過去3ヶ年の撮影患者数の動向 (単位:人)

	2014年1～12月	2015年1～12月	2016年1～12月
勤務時間内	64,851	60,743	62,785
勤務時間外	15,706	17,171	16,975
合計	80,557	77,905	79,765
前年比		96.71%	102.39%
対前々年比			99.17%

・Interventional Rad:ology (IVR、画像下治療) (2016年1月～12月) (単位:人)

放射線科	血管系 41	TACE (肝動脈化学塞栓術)	28
		その他TAE	4
		PTA	9
非血管系 8		CTガイド下腫瘍ドレナージ	5
		CTガイド下肺生検	3
脳神経外科	血管系 63	動脈瘤コイル塞栓術	17
		CAS (頸動脈ステント留置術)	0
		その他IVR (血管内治療)	2
		コイル塞栓・ステント留置術	2
		検査アンギオ	42

〔読影統計〕

(単位:人)

(単位:人)

検査数	CT		MRI		マンモ		人間ドック(胸部)		人間ドック(CT)	
		18,444	68%	6,633	42%	789	100%	1,882	100%	361
読影数	12,565	68%	2,771	42%	789	100%	1,882	100%	361	100%
(院内)	6,609	36%	1,192	18%	0	0%	0	0%	0	0%
(院外)	5,956	32%	1,579	24%	789	100%	1,182	100%	361	100%

AiCT	
院内	警察
126	15

※ %は検査数に対する読影数の割合

〔業務統計〕

・撮影種別患者数 (2015年及び2016年)

(単位:人)

撮影項目	2015年1月～12月			2016年1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合計	勤務時間内	勤務時間外	合計
一般撮影	27,807	7,760	35,567	30,206	7,746	37,952
ポータブル撮影	4,544	3,307	7,851	4,700	2,915	7,615
乳房撮影	1,629	0	1,629	1,672	1	1,673
パントモ撮影	654	13	667	687	7	694
骨塩定量	1,329	0	1,329	1,275	0	1,275
結石破砕	71	0	71	24	1	25
X線TV	1,736	136	1,872	1,774	146	1,920
一般アンギオ	106	11	117	115	11	126
循環器アンギオ	211	47	258	249	57	306
C T	13,321	4,791	18,112	14,314	4,926	19,240
M R I	5,585	1,101	6,686	5,743	1,170	6,913
R I	367	5	372	338	0	338
放射線治療	3,374	0	3,374	1,688	0	1,688
合計	60,734	17,171	77,905	62,785	16,980	79,765

14. 麻 醉 科

2016年麻酔科管理症例

2016	外科	全身麻酔(吸入)	126
		全身麻酔(TIVA)	90
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	99
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	55
		小 計	370
	形成外科	全身麻酔(吸入)	21
		全身麻酔(TIVA)	8
		小 計	29
	歯科口腔外科 (新潟大学 歯科麻酔科出張医によるもの)	全身麻酔(吸入)	78
		全身麻酔(TIVA)	3
		小 計	81
	産科・婦人科	全身麻酔(吸入)	10
		全身麻酔(TIVA)	56
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	13
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	53
		脊髄くも膜下麻酔	2
		その他	1
		小 計	135
	耳鼻咽喉科	全身麻酔(吸入)	6
		全身麻酔(TIVA)	3
		小 計	9
	小児外科	全身麻酔(吸入)	75
		全身麻酔(TIVA)	4
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	5
		小 計	84
	呼吸器外科	全身麻酔(吸入)	11
		全身麻酔(TIVA)	11
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	33
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	27
		硬膜外麻酔	2
		小 計	84

	整形外科	全身麻酔(吸入)	203
		全身麻酔(TIVA)	81
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	20
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	37
		脊髄くも膜下麻酔	1
		小 計	342
	脳神経外科	全身麻酔(吸入)	11
		全身麻酔(TIVA)	46
		小 計	57
	泌尿器科	全身麻酔(吸入)	2
		全身麻酔(TIVA)	1
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	3
		脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	1
		小 計	7
	合 計		1,180

15. 病 理 科

臨床統計

病理検査は院内、院外ともほぼ1割の減であった。

検体種類別に見てみると、組織診が大幅に減少した。特に三臓器での増減率は-25.7%であった。しかし術中迅速診は組織診、細胞診とも増加した。

また病理解剖も増加した。外部委託は減少した。診療科毎の件数を見てみると、消化器科と人間ドックの減少が著しかった。受付件数は減少したが1件あたりの作成ブロック数と作製標本枚数は増加した。

表 1 2016年 病理検査件数

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	154	172	146	128	132	163	153	153	126	145	157	151	1780	2083	-303	-14.6
組織診二臓器	23	27	31	22	15	24	27	28	32	26	26	31	312	353	-41	-14.6
組織診三臓器	2	1	6	6	4	5	9	11	7	10	8	9	78	105	-27	-25.7
術中迅速組織診	10	12	12	9	3	9	14	7	15	18	13	9	131	126	5	4
細胞診検査	283	277	364	275	290	355	284	255	280	262	283	252	3464	3655	-191	-5.2
術中迅速細胞診	1	3	1	0	2	3	2	2	3	3	2	0	22	18	4	22.2
検診細胞検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック細胞検査	67	77	64	61	59	82	84	83	69	64	66	64	840	924	-84	-9.1
外部委託検査	13	26	16	15	20	8	11	10	29	25	28	14	215	299	-84	-28.1
病理検査小計	553	595	640	516	525	649	584	549	561	553	583	530	6842	7563	-721	-9.5
病理解剖	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	1	2	8	2	6	300
免疫染色	31	57	43	32	34	37	51	38	40	40	33	33	470	506	-36	-7.1
医師会組織診	193	197	231	210	210	261	267	258	252	289	263	259	2890	3437	-547	-16
医師会細胞診	55	73	61	78	63	89	88	79	79	84	69	52	870	856	14	1.6
病理検査総計	832	923	975	836	835	1036	990	925	932	966	949	876	11080	12364	-1284	-10.4

表 2 2016年 診療科別統計

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内科	16 (22)	28 (26)	145 (187)	23 (19)	94 (82)	4 (2)
消化器科	802 (923)	1329 (1499)	1919 (2016)	80 (39)	350 (174)	0 (2)
呼吸器科	19 (39)	21 (56)	272 (350)	220 (314)	1208 (1532)	0 (0)
外科	428 (444)	4994 (4745)	7440 (6601)	407 (428)	1745 (1986)	0 (1)
呼吸器外科	120 (145)	1240 (1395)	2719 (2652)	25 (23)	143 (125)	0 (0)
小児外科	27 (30)	143 (88)	249 (142)	0 (2)	0 (6)	0 (0)
泌尿器科	160 (214)	839 (1181)	1070 (1552)	1202 (1336)	2422 (2706)	0 (0)
婦人科	316 (356)	2461 (2829)	3094 (3486)	1321 (1365)	1918 (1900)	0 (0)
形成外科	124 (158)	211 (333)	315 (480)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
整形外科	74 (75)	150 (161)	259 (306)	172 (109)	426 (306)	0 (0)
耳鼻咽喉科	18 (18)	27 (31)	46 (47)	8 (15)	36 (67)	0 (0)
歯科口腔外科	86 (93)	151 (136)	361 (379)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
皮膚科	57 (51)	68 (57)	230 (177)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
脳神経外科	4 (7)	6 (18)	39 (37)	0 (2)	0 (0)	0 (1)
神経内科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)	17 (0)	0 (0)
小児科	1 (4)	8 (15)	8 (46)	12 (7)	36 (18)	0 (0)
眼科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
人間ドック	49 (82)	50 (96)	71 (132)	840 (924)	2111 (2410)	0 (0)
循環器科	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (14)	1 (0)
その他	1 (1)	2 (1)	7 (15)	9 (11)	9 (17)	5 (0)
合計	2302 (2667)	11728 (12672)	18244 (18610)	4326 (4597)	10515 (11343)	10 (6)

16. 歯科口腔外科

2016.1.1～12.31臨床統計。口腔外科台帳からのデータ。口腔外科疾患では前年に比べ外傷、悪性腫瘍が増加した。歯科疾患では周術期口腔機能管理依頼の院内紹介が増加した。

表1 2016年新患

年間新患数	827例	
(内訳)院外紹介	585例	70.7%
院内紹介	140例	16.9%
救急センター	96例	11.6%
その他	6例	0.7%
院外紹介 歯科:医科	9.3:1	
口腔外科疾患	372例	45.0%
歯科疾患(抜歯を含む)	455例	55.0%

表2 新患827例の疾患内訳

表2 A 口腔外科疾患372例の内訳

疾患分類	(例)	(%)
顎関節疾患	48	12.9
炎症	37	9.9
外傷	103	27.7
粘膜疾患	45	12.1
良性腫瘍	28	7.5
唾液腺疾患	21	5.6
悪性腫瘍	8	2.2
顎骨嚢胞	10	2.7
顎変形症 (口蓋裂,SAS埋入依頼を含む)	18	4.8
その他	54	14.5

表2 B 歯科疾患455例の内訳

疾患分類	(例)	(%)
抜歯	348	76.5
W z 摘出 / W S R	8	1.8
歯科治療	59	13.0
周術期口腔機能管理	35	7.7
その他	5	1.1

表3 入院の内訳

疾患分類	(例)	(%)
顎変形症	15	12.3
骨内プレート	8	6.6
悪性腫瘍	6	4.9
良性腫瘍	17	13.9
炎症	9	7.4
外傷	10	8.2
抗凝固剤投与状態	16	13.1
埋伏歯・埋伏智歯	37	30.3
その他	4	3.3

総症例数 122
 複数回入院 3
 前年からの越年入院 2
 Sterben 2

表 4 手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表（2016.11改訂）の分類に基づいた統計で，研修施設を対象とした口腔外科疾患症例調査に準じて集計した。

表 4 A 外来小手術

分野記号	レベル I 基 本	レベル II 中 難 度	レベル III 高 難 度	レベル IV 超高難度	合 計	
A-1	229	9	0		238	73.9%
A-2	2	0	0		2	0.6%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	7	4	0	0	11	3.4%
B-2	22	0	0	0	22	6.8%
B-3	11	0	0	0	11	3.4%
B-4	1	0			1	0.3%
C-1	15	1	0	0	16	5.0%
C-2	2	0	0	0	2	0.6%
C-3	2	0	0	0	2	0.6%
D-1	0	0	0	0	0	0%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3	0	0	0	0	0	0%
その他	その他、上記に含まれない埋伏抜歯・生検などの小手術 (ただし、普通抜歯は含まず)				17	5.3%

総数322術式（複数分野施行は1術式）

表 4 B 手術センター手術

分野記号	レベル I 基 本	レベル II 中 難 度	レベル III 高 難 度	レベル IV 超高難度	合 計	
A-1	6	42	0		48	36.1%
A-2	0	0	0		0	0%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	0	1	0	0	1	0.8%
B-2	17	1	0	0	18	13.5%
B-3	0	1	2	0	3	2.3%
B-4	0	0			0	0%
C-1	0	3	0	0	3	2.3%
C-2	17	5	14	3	39	29.3%
C-3	0	0	0	0	0	0%
D-1	1	9	1	0	11	8.3%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3	1	2	2	0	5	3.8%
その他	その他、上記に含まれない手術				5	3.8%

100症例に対して、133術式（複数分野施行・33術式）施行した。

全麻：80例，IV-S：13例，局麻：7例。

<分野記号：分野名>

A-1：歯・歯槽外科手術， A-2：補綴前外科手術/顎堤形成手術/骨移植手術， A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術， B-2：良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成疾患等の手術， B-3：唾液腺関連手術， B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術， C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術， C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置（唾液腺悪性腫瘍は別掲）， D-2：再建外科手術， D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

17. 中央検査科

2016年は、検体、生理検査ともに増加した。一般菌検査の増加の勢いは依然として高く、ICT活動への貢献も含め更なる体制強化を図りたい。

生理検査も検査室、部署施行分ともに増加している。引き続き超音波検査の医師施行分の技師実施並びに即日実施検査の拡充を進めたい。

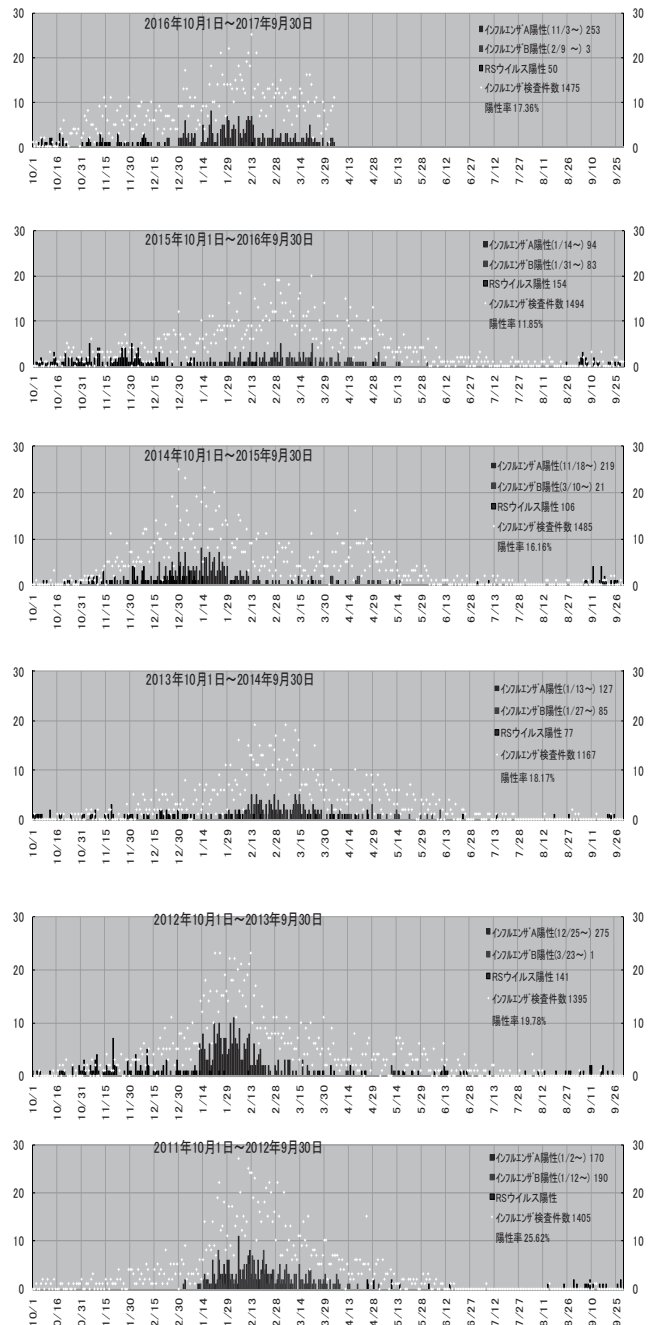
表1 検体検査件数

	2015	2016	増減率(%)
化学	1,212,161	1,300,504	107.29
血液	147,389	159,599	108.28
血清	64,913	70,324	108.34
一般	45,982	46,776	101.73
細菌	28,043	36,637	130.65
(迅速)	4,913	5,230	106.45
(一般菌)	23,130	31,407	135.78
輸血	10,386	10,459	100.70
委託	17,809	19,953	112.04
総計	1,526,683	1,644,252	107.70

表2 生理検査件数

		2015	2016	増減率(%)
生理検査室	心電図等	12,807	13,555	105.84
	(ホータブル)	711	754	106.05
	(シネアンキオ)	265	292	110.19
	超音波/技師	2,532	2,552	100.79
	超音波/医師	1,926	2,110	109.55
	小計	17,265	18,217	105.51
各部署	心電図等	7,012	7,003	99.87
	超音波	5,099	5,346	104.84
	小計	12,111	12,349	101.97
総計		29,376	30,566	104.05

インフルエンザ検出状況



18. 薬 局

薬剤管理指導件数は、麻薬管理指導加算を除き大幅に増加した。病棟薬剤業務実施加算の算定と並行して病棟での薬剤師業務を充実させることができた。

院外処方せん発行率については、昨年に比べて上昇した。I V H調製件数については対象患者の減少に伴い昨年に引き続き減少した。

処方箋枚数

	H28	H27	前年比
入院処方箋	72142	65884	109.5%
外来(院内) (検査紙等含む)	15836	17340	91.3%
院外処方箋	65984	62712	105.2%
院外発行率	80.65%	78.34%	102.9%

注射処方箋枚数

	H28	H27	前年比
注射処方箋(入院)	154808	143112	108.2%
注射処方箋(外来)	21963	23353	94.0%

薬剤管理指導業務

	H28	H27	前年比
指導人数	7871	6688	117.7%
指導回数	13669	11765	116.2%
通常薬請求件数	5757	4492	128.2%
ハイリスク薬 請求件数	2931	2603	112.6%
麻薬管理 指導加算件数	100	113	88.5%
退院時薬剤情報管理 指導料算定件数	2883	2151	134.0%

抗悪性腫瘍剤調製

	H28		H27		前年比	
	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)
(入院)	1496	3144	2006	3771	74.6%	83.4%
(外来)	1323	1600	1583	1726	83.6%	92.7%

後発品置き換え率については、着実に切り替えを行ってきた成果がでた。目標の80%以上の維持は達成した。今後は90%以上の維持に努めるとともに、切り替えも行っていく。同時に採用品目の削減も実施していく。

I V H 調製

	H28	H27	前年比
調製本数(成人)	636	966	65.8%
調製本数(小児)	2976	3772	78.9%

製 剤

	H28	H27	前年比
一般製剤品目数	65	65	100.0%
無菌製剤品目数	28	28	100.0%
調 製 件 数	2158	3075	70.2%

臨床試験・製造販売後調査

	H28	H27	前年比
臨床試験	0	0	—
製造販売後調査	41	50	82.0%

持 参 薬 鑑 別

	H28	H27	前年比
鑑 別 人 数	7903	7269	108.7%
鑑 別 件 数	11322	10900	103.9%

外来指導

	H28	H27	前年比
指 導 人 数	104	117	88.9%

入院時面談

	H28	H27	前年比
面 談 人 数	2016	2551	79.0%

後発医薬品

	H28	H27	前年比
置き換え率(数量ベース)	91.59%	85.26%	107.4%

19. リハビリテーションセンター

2016年 リハビリテーションセンター 臨床統計

(単位：人)

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外来	脳血管理学Ⅰ	11	16	14	9	9	6	11	10	14	14	16	13	143	
		運動器理学Ⅰ	146	143	183	133	122	128	133	141	160	134	134	177	1,734	
		呼吸器理学Ⅰ	0	2	0	2	1	2	2	1	1	1	1	0	0	12
		心大血管理学Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がんⅠ理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管理学Ⅰ	640	708	530	657	593	602	498	592	538	601	567	610	7,136	
		脳血管廃用理学Ⅰ	275	301	258	137	26	20	10	0	1	0	0	0	1,028	
		運動器理学Ⅰ	829	847	968	1,045	910	906	715	779	620	721	969	862	10,171	
		呼吸器理学Ⅰ	110	106	168	145	229	280	165	123	97	122	108	101	1,754	
		心大血管理学Ⅰ	83	139	159	131	107	87	78	101	58	80	117	93	1,233	
		がんⅠ理学	148	141	153	98	62	114	139	202	157	107	142	164	1,627	
作業療法	外来	廃用理学	275	301	258	237	178	349	262	352	302	392	309	314	3,529	
		脳血管作業Ⅰ	4	4	0	0	0	3	2	2	1	3	1	0	20	
		運動器作業Ⅰ	198	216	225	175	207	205	216	259	253	189	170	173	2,486	
		呼吸器作業Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		心大血管作業Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		がん作業Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	入院	廃用作業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		脳血管作業Ⅰ	460	523	391	506	503	475	359	355	266	375	276	237	4,726	
		運動器作業Ⅰ	157	109	125	187	138	229	173	144	84	136	123	119	1,724	
		呼吸器作業Ⅰ	12	10	3	4	5	22	22	12	0	0	6	0	96	
言語療法	外来	心大血管作業Ⅰ	2	21	30	16	20	15	6	5	1	0	8	6	130	
		がん作業Ⅰ	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
		廃用作業	52	55	46	48	29	21	17	25	8	18	21	3	343	
		脳血管Ⅰ言語	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	
		廃用言語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
言語療法	入院	脳血管Ⅰ言語	190	193	170	193	171	148	127	199	102	125	143	188	1,949	
		廃用言語	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0	9	

(単位：人)

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
摂食療法	外来入院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			143	184	113	167	126	166	142	198	182	212	222	154	2,009

20. 栄 養 科

給 食 の 状 況

1. 栄養指導回数及び延人員

(単位：件、人)

区分 年度	胃腸病			肝臓病			高血圧			心臓病			糖尿病					
	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計			
26	553	282	835	13	3	16	57	48	105	91	91	63	154	214	92	306		
27	579	313	892	32	20	52	62	35	97	83	83	64	147	196	115	311		
28	461	342	803	6	2	8	11	7	18	141	141	78	219	383	130	513		
区分	腎臓病						その他						総計					
年度	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計
	26	78	51	130	129	121	250	102	54	156	108	108	84	192	1,229	1,229	712	1,941
27	68	37	105	50	60	110	108	108	216	289	289	113	402	1,178	1,178	728	1,906	
28	224	88	312	96	80	176	333	74	407	289	289	113	402	1,944	1,944	914	2,858	

2. 給食数

(単位：件、人)

区分 年度	一 般 食	特 別 食	給 食 総 数	一 日 平 均 給 食 人 員
26	184,599	181,372 (内特別食加算 102,646)	365,971	1,005.0
27	181,626	169,774 (内特別食加算 91,207)	351,400	970.4
28	163,042	191,156 (内特別食加算 101,631)	354,198	968.0

給食総数に対する
特別食加算の割合

28.0%

26.0%

28.7%

3. 主要特別食数内訳

(単位：件)

区分 年度	塩 分 制 限 食	塩 分 透 析 食	塩 分 指 定 食	エ ネルギー 指 定 食	エ ネルギー 蛋 白 制 限 食	脂 肪 制 限 食	潰 瘍 食	胃 切 除 食	腸 切 除 食	学 童 食	幼 児 食	や わ ら か ご 飯 食	高 蛋 白 食	経 路 変 更 食	そ の 他	計
26	18,657	9,157	6,103	25,340	4,998	3,205	1,690	1,877	4,660	7,546	10,506	0	18,951	68,682	181,372	
27	16,969	5,855	4,171	24,729	5,635	2,076	1,015	2,659	3,025	10,584	11,519	51	15,546	65,940	169,774	
28	23,931	6,351	7,837	31,165	6,750	5,025	2,309	2,438	3,204	8,423	8,784	41	14,142	70,756	191,156	

21. 平成28年度糖尿病委員会活動報告

メンバー紹介

医師：竹田文洋・須田克幸

臨床検査技師：岡部奈穂 大塚隼人 薬剤師：鎌田敬志 五十嵐康朗 管理栄養士：澤井寛子

理学療法士：佐太木淳一 助産師：水口雪子

看護師：佐藤恵美 宅井さやか 菅原咲菜 石川由紀 佐藤菜美 長濱恵美

1、定例委員会 毎月1回 開催 (第1火曜日)

2、糖尿病教室 毎月第2金曜日 14:00~15:00

期 日	3月10日	講 師	参加者
4月8日	糖尿病って、どんな病気？他の病気との深い関係／ 健康診断：見方と受診のタイミング	検査技師	2名
5月13日	測ってみよう 血糖値！数値をどう読む？	検査技師	4名
6月10日	雨の日でもできる！効果的な運動／ 熱中症予防ー夏場の水分補給の仕方ー	理学療法士 看護師	2名
7月8日	無理なく継続食事療法	管理栄養士	4名
8月12日	糖尿病薬あれこれ ～災害への備え 薬の種類 飲み合わせ～	薬剤師	2名
9月9日	糖尿病と腎不全/家庭で血圧を測ろう	看護師	4名
10月16日(日) 14:00~16:00	市民講座「糖尿病のつどい」 講演1「食事をもっとおいしくするエッセンス ～おいしくて簡単な減塩レシピ～」 講演2「あなたは、メタボ派？ ロコモ派？」 体験コーナー：フットケア、血糖測定 クイズコーナー：運動量とカロリーの計算、血糖値が 低くなる原因	委員全員対応	26名
11月11日	糖尿病と目の病気／感染予防とその対策	眼科医師 看護師	5名
12月9日	ブラークコントロールで歯周病予防（歯磨き実践）／ 年末年始の食事のしかた	歯科衛生士 管理栄養士	2名
1月13日	糖尿病とストレス／災害時の備え	臨床心理士 看護師	2名
2月10日	糖尿病神経障害ってどんな病気？／フットケア実践	看護師	3名
3月10日	糖尿病と妊娠	助産師	1名

3、糖尿病だより（患者向け広報）発行：月1回

平成28年3月までで、第243号となった。

4、院内研修会

期 日	内 容
平成28年6月7日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講演:「糖尿病治療薬」と実演 「とうにょう」のクスリの最近の話を耳にしていますか 症例検討:症例1SU薬、症例2 α -GI薬
平成28年12月6日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講演:「実はいろいろ?! -低血糖の種類とその対処法-

5、院外発表

- ◎第7回庄内薬剤師糖尿病講演 2016年7月9日 日本海総合病院 講堂
「山形県内病院の血糖測定器・穿刺器に関するアンケート調査と課題」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志
- ◎第2回庄内糖尿病オールサポートネット研修会 2016年6月28日 荘内病院講堂
「実はいろいろ?! -低血糖の種類とその対処法-」
鶴岡市立荘内病院看護部血液浄化療法センター 糖尿病看護認定看護師 宅井さやか
- ◎第5回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2016年10月29日・30日 神戸
「ノボラピッド®30ミックス注フレックスペン®からライゾデグ® 配合注フレックスタッチ®へ切り替え説明直後の患者アンケート調査」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志、石川 大介、荒井 真智子
- ◎日本糖尿病学会第54回東北地方会 2016年11月12日 仙台
「インスリン製剤をバイオ後発品へ切り替えた際の患者満足度についてのアンケート調査」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 五十嵐 康郎、鎌田 敬志、荒井 真智子
同看護部 宅井さやか
- ◎日本糖尿病学会第54回東北地方会 2016年11月12日 仙台
「山形県内病院における血糖測定器採用・運用状況の調査と今後の課題」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志、五十嵐 康郎
同看護部 齋藤 まゆ、長濱 恵美、阿部 優子、宅井さやか、
押井 あけみ、百瀬 幸
庄内薬剤師糖尿病研究会 鈴木 悠太、成田 康之

6、その他の活動

- ・フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ40件/年、血液浄化療法センター述べ423件/年でセルフケア、悪化予防が図られている。
- ・内科外来において透析予防指導管理を開始し48件/年で、透析予防のための療養支援を行っている。
- ・在宅妊娠糖尿病患者の指導を開始し3件/年で、療養支援を行っている。
- ・糖尿病看護認定看護師が1回/週、外来にて糖尿病患者への介入を行い療養支援の充実を図っている。

〈学会・研修会への参加〉

- 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 2016年5月21日～24日 京都
薬局 鎌田 敬志
- 糖尿病重症化予防ブラッシュアップ研修会 2016年5月15日 仙台
血液浄化療法センター 宅井さやか 吉田里枝
- 第5回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2016年7月23日～24日 京都
血液浄化療法センター 齋藤まゆ
- 平成28年度小児サマーキャンプ日本糖尿病協会山形県支部 2016年7月16日～18日 鶴岡
血液浄化療法センター 宅井さやか
- 糖尿病学会第54回東北地方会 2016年11月12日 仙台
薬局 五十嵐 康郎、中央検査科 大塚隼人
- 第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会2016年11月18日～19日 岡山
4階西入院棟 水口 雪子
- 第51回糖尿病学の進歩 2017年2月17日～18日 京都
6階西入院棟 菅原咲菜

22. NST (栄養サポートチーム：Nutrition Support Team) 委員会活動報告

1. NST委員会 委員

大滝雅博 (医師) 安宅謙 (医師) 坂本薫 (医師) 井上裕子 (看護師) 秋野博子 (看護師)
 石井佳 (看護師) 富樫悠奈 (看護師) 田中大輔 (薬剤師) 佐藤拓也 (薬剤師)
 富樫博子 (管理栄養士) 鈴木貴志 (臨床検査技師) 高橋裕美 (臨床検査技師)
 五十嵐知依 (言語聴覚士) 瀬尾章央 (理学療法士) 石垣佑美 (歯科衛生士)

2. 活動内容

NST委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

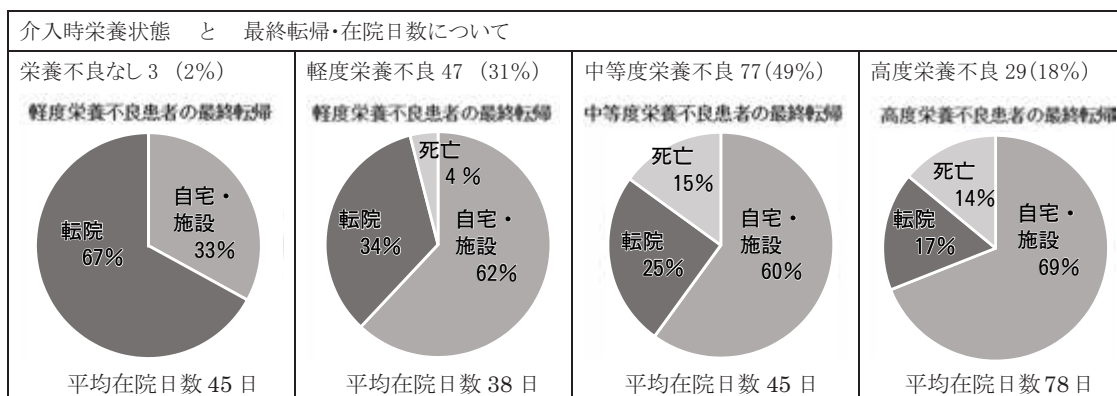
● スクリーニング (入院時初期評価)

入院患者に対し、スクリーニングと栄養管理計画書

2016.1～2016.12までのスクリーニング実施数9697名、NST介入依頼数は156名であった。

NST依頼患者の平均年齢78歳 (男女比1:1) であった。

介入時の栄養状態が低下しているほど死亡の転帰をたどる症例が多く、平均在院日数が延長していた。



● 回診 (毎週水曜日)

定例回診数 45回
 新規紹介患者 156名 (男性79名、女性77名)
 回診延べ患者 560名
 平均年齢 78歳 (44-92)
 うち褥瘡保有患者 26名

● ワーキンググループ活動

・ガイドライン：経管栄養・嚥下・口腔ケア・静脈栄養について運用中

● 広報活動

・NST通信、荘内病院ホームページ

● 教育活動（セミナー・学習会など）

院内及び院外学習会

- 5月24日 リハビリ栄養について
- 6月18日 静脈・経腸栄養療法の今後の方向性
- 10月25日 食べるに繋げる援助

NST委員会ミニレクチャー

- 10月20日 アミノ酸と創傷治癒～オルニチンの創傷治癒効果～

NSTリンクナース学習会

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----------|
| 4月14日 | 栄養管理の必要性 | 11月10日 | 当院採用の補助食品 |
| 5月12日 | 栄養療法の基礎 | 12月8日 | 輸液療法の基礎① |
| 6月9日 | 摂食嚥下の基礎 | 1月12日 | 輸液療法の基礎② |
| 7月14日 | 身体計測 | 2月9日 | 栄養療法の実際① |
| 9月8日 | 栄養アセスメントに用いる検査について | 3月9日 | 栄養療法の実際② |
| 10月13日 | 当院の経腸栄養剤について | | |

3. 院内の栄養管理体勢

入院時に患者に対する栄養スクリーニング・アセスメントを行い、適切な栄養管理に取り組んでいる。各入院棟では、多職種による栄養カンファレンスを定期的を実施し、NSTによるサポートが必要と判断した患者は、NSTによる詳細なアセスメント・プランニング・回診・治療計画を作成し、退院時には転院もしくは退院先に栄養サマリを送付するなど、情報提供を行っている。

4. 学会・研究会・セミナー（参加・発表など）

- 平成28年2月25日・26日 第31回 日本静脈経腸栄養学会（福岡）
富樫博子（管理栄養士）、佐藤知子（管理栄養士）、
井上裕子（看護師）、秋野博子（看護師）、富樫悠奈（看護師）
- 平成28年12月16日山形NST研究会
・発表：「食べる」に繋げる機能的口腔ケアの実施－歯科衛生士の関わり－
石垣佑美（歯科衛生士）

5. 今後の課題

- 1) NST基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーションシステムの確立
- 4) 口腔ケアの充実
- 5) リハビリテーション栄養への取り組み
- 6) 他チームとの連携と情報共有
- 7) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 8) NSTスタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

23. 緩和医療委員会の活動報告

1. メンバー紹介（14名）

医師 2 名、薬剤師 2 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名（がん病態栄養専門管理栄養士 1 名）

看護師 9 名（緩和ケア認定看護師 2 名、がん化学療法看護認定看護師 1 名、乳がん看護認定看護師 1 名）

2. 緩和医療委員会の活動内容

1) 患者・家族会：季節を感じ、気分転換を図ることで、闘病生活のなかでのモチベーションアップや前向きな気持ちにつながる機会をつくるために開催

4月16日 お花見会

8月20日 花火鑑賞会

12月17日 クリスマス会

2) グリーフカード：大切な方を亡くしたご家族のグリーフケアとして作成。7月、12月、3月に57名に発送。4名のご家族から手紙や電話で連絡があり、看護師の関わりに対する感謝の言葉などを頂いた。

3) 院内教育活動：緩和ケア入門講座開催

●平成28年5月19日「終末期の食事・栄養のすすめ方」 富樫博子

●平成28年7月7日「オピオイドの使用についてのあれこれ」

～当院で発生した事例をもとに～ 高橋直子

●平成28年9月1日「持続皮下輸液について」 國分広志、疋田仁美

●平成28年12月15日「がん疼痛の評価と治療」 和泉典子

●平成29年3月30日「終末期がん患者の苦痛緩和のための鎮静」 和泉典子

4) その他

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）開催（1月10日、11日）



患者・家族会の様子



PEACE研修会の様子

3. 緩和ケア依頼件数

平成28年度の緩和ケア依頼人数は119件（図1）であった。診療科別依頼は外科38件、消化器内科30件、呼吸器内科18件の順に多く昨年と同様であった。神経内科、循環器科、心臓・血管外科からの依頼もあり、今後は非がん患者の緩和ケアにも取り組んでいく必要がある。

依頼内容は総数402件で昨年と比較すると1.5倍と増加しており、1件の依頼に対して、多岐に渡る内容への介入が求められていることが分かった。患者の精神的支援69件、痛み・しびれ57件、精神症状52件、家族ケア50件の順に多く、患者・家族への精神的支援が幅広く望まれていることが分かった。今後、スタッフが精神的支援に関わるような教育体制を整えていく必要がある。

今年度は緩和ケアマニュアルを作成し各部署に配布したため、活用されるように周知していきたい。基本的緩和ケアを院内のスタッフが実践できるように、今後、院内の統一や周知が必要な項目があれば随時追加・修正していきたい。

《グラフ》

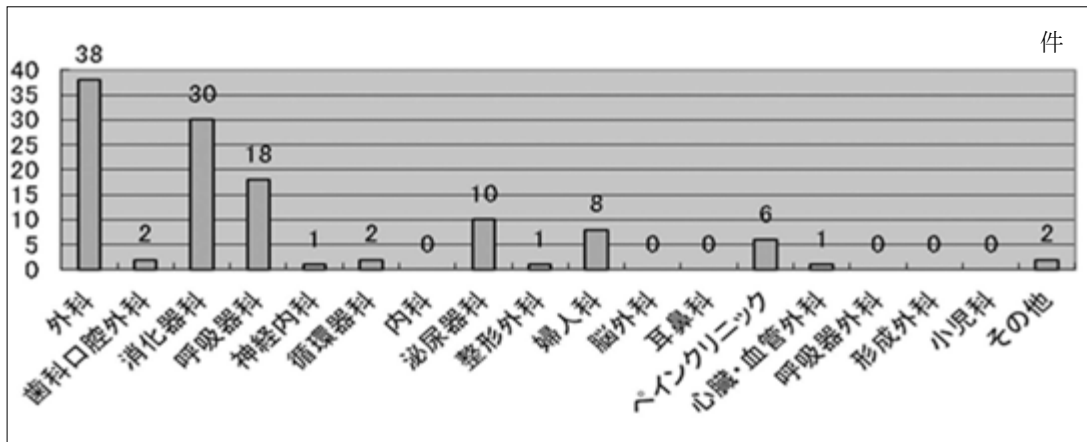


図1 診療科別依頼件数

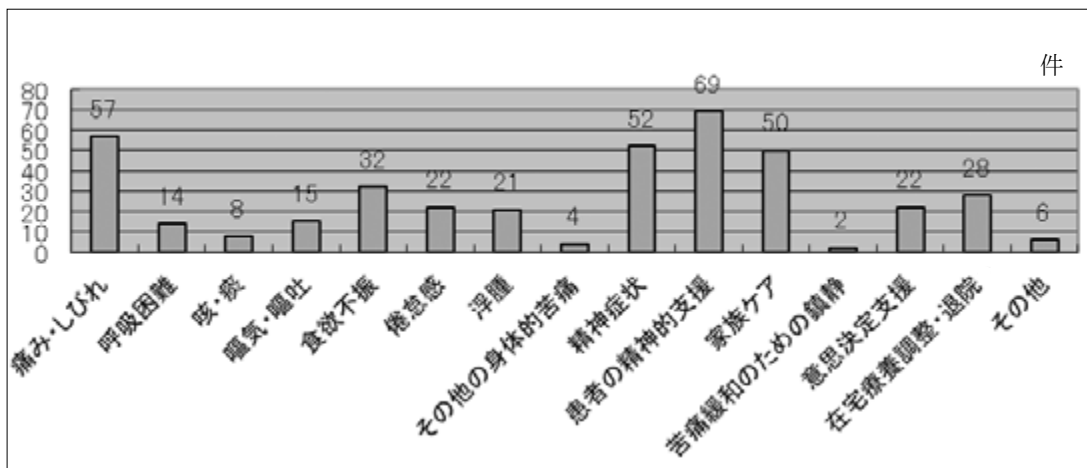


図2 PCT依頼内容（重複含む）

4. 講演会・研究会—発表、論文

- 北村山乳がんセミナー (平成28年5月13日 北村山公立病院)
「乳がん患者の診断から治療意思決定支援まで」 竹内梨紗
「乳がん患者の早期からの緩和ケア」 上林沙希子
- 山形県看護協会健康まつり (平成28年5月14日 山形県看護協会会館)
「乳がん検診してますか？」 竹内梨紗
- 新潟青陵大学特別講義 (平成28年5月19日 新潟市)
「がん終末期患者の緩和ケア」 鈴木 聡
- 第21回 日本緩和医療学会学術集会 (平成28年6月17、18日 国立京都国際会館)
「緩和ケアチーム主催の患者・家族会の現状と課題」 上林沙希子
「庄内プロジェクトがん患者・家族サロン"ほっと広場"の有用性」 阿部美知子
「緩和ケア普及・啓発のための庄内プロジェクト『市民公開講座』の有用性について」 鈴木 聡
- つる葉ネット講演会 (平成28年9月15日 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる)
「乳がん患者の特徴的支援～乳がん看護認定看護師としての関わり～」 竹内梨紗
- まちの保健室 (平成28年10月8日 小真木原総合体育館)
「乳がん検診してますか？」 竹内梨紗
- 第40回 日本死の臨床研究会年次大会 (平成28年10月8、9日 札幌コンベンションセンター)
「当院における終末期患者のペット面会の現状と今後の課題」 阿部美知子
- 山形県看護研究学会 (平成28年11月10日 山形県看護協会会館)
「A病院のグリーンカード発送の現状と評価」 阿部美知子
- 第10回緩和ケア市民公開講座 (平成28年11月12日 いろり火の里なの花ホール)
「緩和ケアについて」 鈴木 聡
- 庄内プロジェクト緩和ケアを学ぼう会 (平成28年10月14日 講堂)
「看とりのケア」 和泉典子
- 鶴岡地区歯科医師会他科学習会 (平成29年2月23日 グランドエルサン)
「最期まで潤いのある生活を —当院の緩和ケアの実際—」 上林沙希子

5. 今後の課題

- 1) パンフレット・マニュアルの見直し
- 2) がん患者スクリーニングの実施

24. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

1. メンバー紹介（平成28年5月現在）

褥瘡対策委員会

石原良（委員長：医師） 梅本貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 佐藤和彦（医師）
 小池千里（医師） 菅原稔（医事） 百瀬幸（看護師） 五十嵐可奈子（看護師） 佐藤南（看護師）
 佐藤ひとみ（看護師） 佐藤舞（看護師） 五十嵐昌美（薬剤師） 吉田諒（薬剤師）
 松田順子（管理栄養士） 佐太木淳一（理学療法士） 五十嵐雅也（総務） 事務局：佐藤美津子

褥瘡予防対策リンクナース

遠藤由紀 阿部暁子 石川沙織 菅原紀子 岩浪英里 林理絵 今井香里 菅原由佳
 川村奈美子 小野寺杏奈 今野優喜 井上京子 阿部由香

2. 褥瘡予防対策委員会の組織

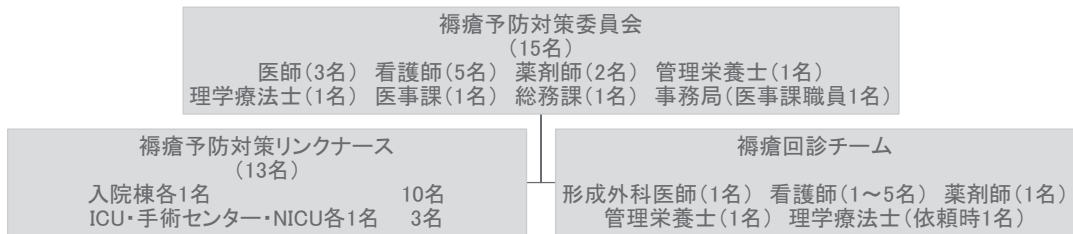


図1 組織図

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野においた連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

3. 褥瘡委員会の活動

- 褥瘡予防対策委員会
 - ・年6回 委員会開催
 - ・年2回 褥瘡研修会
 - ・年1回 褥瘡市民公開講座開催
 - ・年5回「WCT Times」の発行
 - ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド
- 褥瘡回診チーム
 - ・週1回 褥瘡回診・カンファレンス
- 褥瘡予防対策リンクナース
 - ・月1回 リンクナース会議と褥瘡予防・スキンケアラウンド
 - ・褥瘡回診同行
 - ・各入院棟専任褥瘡管理者

○ その他

- ・体圧分散寝具、ポジショニングクッション検討・導入

市民公開講座の開催で予防対策を市民へ広く情報提供、および、知識の普及を図っている。院内では、褥瘡管理システムが運用され定期的な評価を行うことでスタッフのアセスメント力が向上し、スタッフの褥瘡予防に対する意識を高めることにつながっている。同時にエアマットが適正使用できるよう電子カルテ上で管理・運用を開始しタイムリーな導入および適正使用を図っている。月1回の定期的なラウンドでは、効果的なポジショニングの検討・予防的スキンケア徹底に向けての指導を強化している。



4. 褥瘡研修会の開催

期 日	内 容	参 加
平成28年 9月6日(火) 18:00~19:00	一 高齢者の脆弱な皮膚のケア 「多職種と連携するスキンケア予防」 鶴岡市立荘内病院 褥瘡予防対策チーム メンバー	院内 51名 院外 18名 計 65名 参加
平成29年 2月24日(金) 18:00~19:00	MDRPU 医療機器関連圧迫創の予防と実践 鶴岡市立荘内病院 褥瘡予防対策チーム メンバー	院内 85名 院外 3名 計 84名 参加



5. 院外発表

- ・「新規おむつ導入に伴う当院入院棟の交換回数の変化」 佐藤南
第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 平成28年6月11・22日：金沢
- ・「褥瘡新規発生患者の要因分析及今後の課題」 梅本貴子
- ・「BMI19.9 脊椎部に発生した褥瘡に加工パッドを使用し治癒促進した症例の考察」 百瀬幸
第18回日本褥瘡学会学術集会 平成28年9月2・3日：パシフィコ横浜
- ・「NICUにおける医療関連機器圧迫創への対応－電極キャップによる褥瘡発生の経験から－」
中野早苗
第13回日本褥瘡学会 東北地方会 平成28年10月29日：仙台国際センター

6. 平成28年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- ・褥瘡有病率：4.56％（前年度4.30％）
（日本褥瘡学会2010年調査：2.94％）
 - ・褥瘡推定発生率：1.27％（前年度1.17％）
（日本褥瘡学会2010年調査：1.40％）
 - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数：784件（前年度885件）
- ※有病率（％）＝褥瘡保有者/調査日の入院患者数（24時時点＋退院患者）×100
発生率（％）＝入院後褥瘡発生患者数/調査日の入院患者数（24時時点＋退院患者）×100

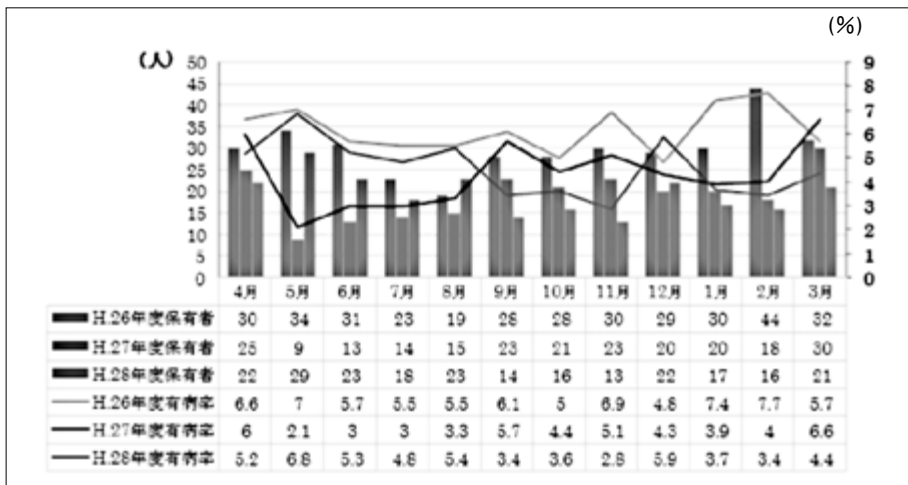


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

前年度比で、有病率は、前年度平均4.30％から4.56％へ増加した。この背景には、地域特有の高齢化率の増加が考えられる。庄内南部地域は、全国と比べて高齢化率が高く、高齢者においては皮膚の脆弱性や低栄養、寝たきりなどの褥瘡発生リスクが高くなり、さらには老老介護等のマンパワー不足なども保有者増加の一因であると考えられる。入院後発生率は、1.27％（前年度1.17％）と当院の指標である0.9％を下回ることができなかった。ポジショニングに関する物品や体圧分散寝具の増加により、入院当初から効果的な除圧ができるようになってきている。また「褥瘡・予防スキンケアラウンド」の継続、各部署のリンクナー

スの働きかけにより、褥瘡予防に対する意識は向上している。しかし、入院患者の高齢化や医療関連機器
 圧迫創の増加など時代の変化に対応した対策の徹底が必要であると考えている。また、在宅においては、
 情報提供、知識の普及の機会を通し、市民の褥瘡予防に対する意識の向上に努めている。今後も多職種と
 の連携を深め褥瘡予防対策の構築を目指していきたい。

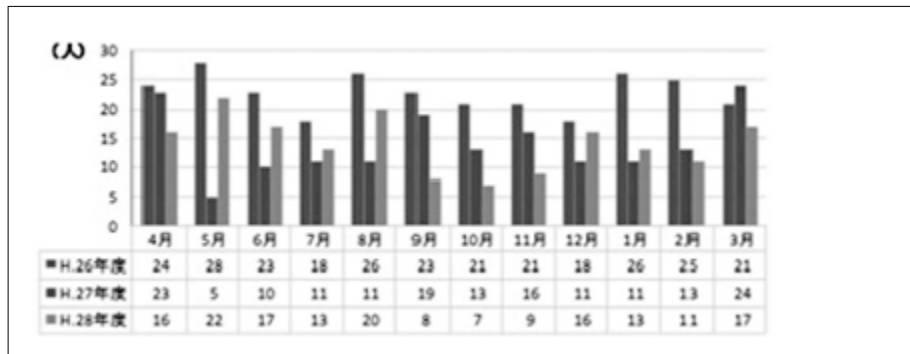


図3 入院後褥瘡既存患者数

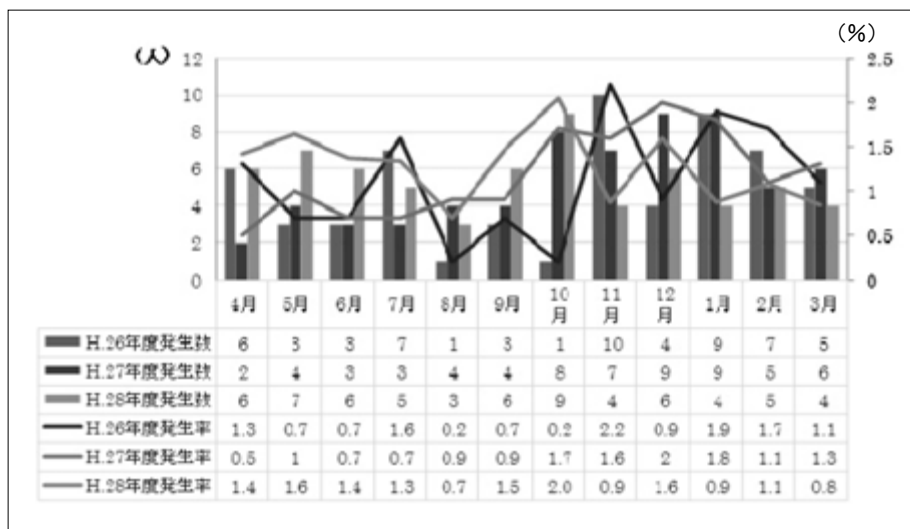


図4 入院後褥瘡発生患者数と褥瘡発生率グラフ

7. 今後の課題

1. 褥瘡管理システムの効果的活用によるリスクアセスメントの実施とケア実践
2. 体圧分散寝具・高機能エアマットの効果的な運用と適正配置
3. 多職種協働による予防対策の徹底
4. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
5. スキンケアの標準化
6. 医療関連機器圧迫創への予防的介入

25. ICT（感染対策チーム：Infection Control Team）活動報告

1. メンバー紹介

● ICT

鈴木聡（感染制御ドクター） 幾瀬樹（小児科医師） 若松由紀子・栗田香（感染管理認定看護師）
大島幸子・庄司敦子・佐藤晴子・本間春圭（看護師）
田中大輔・草島宏平（薬剤師） 中嶋知子・秋葉彩楓（検査技師） 佐藤湮沙（作業療法士）

● リンクナース

清水里美、佐藤佳織、渡邊佳代子、清和真貴、田中亜美、小松美和、鈴木大地、本間未希、
千葉知恵美、渡會花香、阿部希、佐藤舞衣、佐藤智子、吉田里枝、五十嵐芽美、渋谷由美

2. 院内活動

● 定例会議

- ・ICT会議：毎月2回開催（第2木曜日と第4金曜日）
- ・リンクナース会議：毎月1回（第4水曜日）

● ICTラウンド

- ・血液培養陽性患者ラウンド・カンファレンス（毎水曜日）
- ・SSIラウンド（整形関節班：毎火曜日、整形脊椎班：毎水曜日、消化器外科：毎金曜日）
- ・耐性菌検出患者を中心とした感染対策確認ラウンド（適宜）
- ・環境ラウンド（週1回）入院棟・集中ケア部門・中央部門・外来・委託業者・
コメディカル部門

● 研修会の開催

1) 全職員必須研修（LIVE、DVD集合、DVD回覧）

- ・「尿路感染症～観る、アセスメントする、予防する～」 686名（2016.06.22、06.24）
：番場（医師） 梶谷（看護師） 若松（感染管理認定看護師）
- ・「“点滴”と“感染防止”」 567名（2017.01.27、02.01）
：幾瀬（医師） 庄司・佐々木（看護師） 草島（薬剤師）

2) 感染症入門講座

- ・「感染症診療のいろは」 77名（2016.05.30）：幾瀬（医師）
- ・「血培をとる感覚を磨く」 46名（2016.11.30）：幾瀬（医師）
- ・「感染症入門講座」 56名（2017.03.24）：幾瀬（医師）
- ・「入院患者の発熱をどう診るか」 57名（2016.09.30）：幾瀬（医師）

3) その他

- ・11/24（木）新潟大学 菊池教授の講演会（ICTと呼吸器科）
- ・11/02（水）新型インフルエンザ対応訓練および研修会 場所：講堂
- ・11/19（土）庄内感染対策セミナー 場所：講堂

● 感染症対策の見直し・導入

- ・長袖エプロンの変更（6月）
- ・HIV抗体スクリーニング検査開始（12月～）

- ・ベッドパンウォッシャー 5 西 (設置完了3月)

●広報活動

- ・ICT ニュース発行 No.34～35
- ・インフルエンザ情報
- ・肺炎球菌感染症並びにワクチン接種推奨のお願い
- ・ジカ熱発生時のフロー

●施設間連携

- ・合同カンファレンス：年4回(こころの医療センター、余目病院、協立病院、その他参加希望施設)
- ・相互ラウンド：年2回(日本海総合病院、新庄病院)

3. 院外活動

1) 学会・研究会等発表

- ・庄内感染対策セミナー(2016.11.19)
「汚物処理室における感染対策の見直し」：若松 由紀子
- ・山形インフェクションコントロール研究会(2016.09.10)
「鶴岡市立庄内病院の Antimicrobial Stewardship への取り組みと評価」：草島 宏平
- ・山形県微生物研究会(2016.09.10)
「今年春に検出された侵襲性肺炎球菌感染症の疫学的調査」：中嶋 知子

2) 講演

- ・庄内余目病院感染対策研修会講師(2016.07.26)
「感染防止のための院内環境を整備しよう」：若松 由紀子

4. 活動のトピックス

1) 新型インフルエンザ対応合同訓練 in 荘内病院(2016.11.02)

関係機関との連携がとれるよう、医師、看護師、市消防本部、関係機関から多くの方が参加し、本番さながらの訓練を行った。軽症者と重症者の2パターンで、病院への受入訓練を行った。

院内の感染対策マニュアルの整備や、宿泊施設に対する対応方法など、今後の課題が出された。

★「帰国者・接触者外来」に患者到着シーン(荘内日報より)



26. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

1. メンバー紹介

・RST

正岡俊明（呼吸器外科） 岸正人（麻酔科） 渡部直人（麻酔科） 長谷川幸人（臨床工学技士）
 齋藤加恵（理学療法士） 田中大輔（薬剤師） 三浦良哉（集中治療センター看護師）
 佐藤慎吾（集中治療センター看護師） 薄葉由里子（集中治療センター看護師）

・RSTリンクスタッフ

渡部愛（4 東入院棟看護師） 佐藤知春（NICU・GCU） 若生円（6 西入院棟看護師）
 齋藤千夏（7 東入院棟看護師） 小野寺里奈（7 西入院棟看護師） 門脇沙姫（8 東入院棟看護師）
 土門明菜（集中治療センター）

2. RST介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、2016年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は145名で、人工呼吸器使用期間は1日から装着中の患者を含め最長371日で平均は9.80日、中央値3日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含める1日から現在入院中の患者を含め最長169日で平均30.1日、中央値30日でした。2015年との比較では、人工呼吸器装着患者数は143名でありほぼ同数でした。人工呼吸器装着平均日数は8.5日から9.8日に延長、入院日数平均値は40.5から42.1日と増加、入院日数中央値は27日から30日であり、症例により入院日数が長期に渡るものがあったため、平均値の上昇につながったと考えます。それ以外の数値は大きな変化はありませんでした（図1）。

これらのことより、人工呼吸器装着日数や入院日数などはわずかに増加傾向と捉え、長期人工呼吸器管理による要因が大きいと考えられます。人工呼吸器使用状況は、緊急術後症例が35%、循環不全が30%で、次いで呼吸不全が19%でした（図2）。概ね過去5年間と変わらず、緊急術後症例と循環不全（心停止含む）の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。

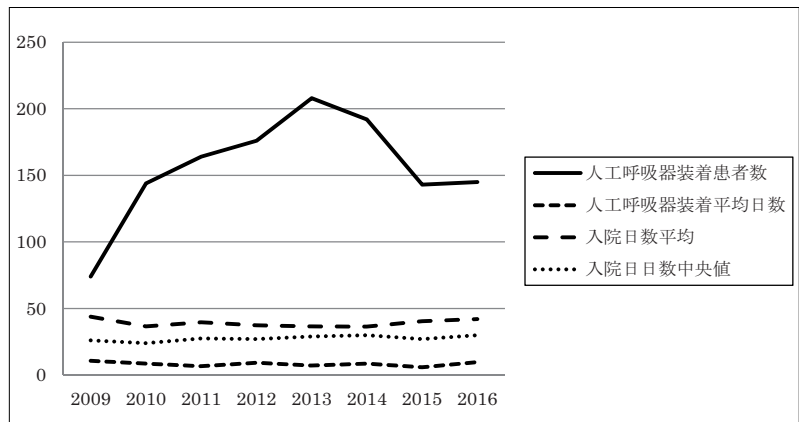


図1 人工呼吸器患者の動向

科別人工呼吸器使用状況では例年通り、脳神経外科の使用が多く、ついで循環器科・外科・呼吸器内科・整形外科の4科の使用が多い傾向でした（図3）。

脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術(coil含む)の緊急症例が79%、外科では56%が消化管穿孔・閉塞の疾患、呼吸器科では呼吸不全における症例が47%でした。循環器科ではうっ血性心不全が60%、心停止後が20%でした。内科においても循環器科同様に、心停止後の割合が66%と多く、次いで敗血症が33%と敗血症が増加しています。整形外科は昨年度と比較し4%増加し、術後症例がほとんどでした。

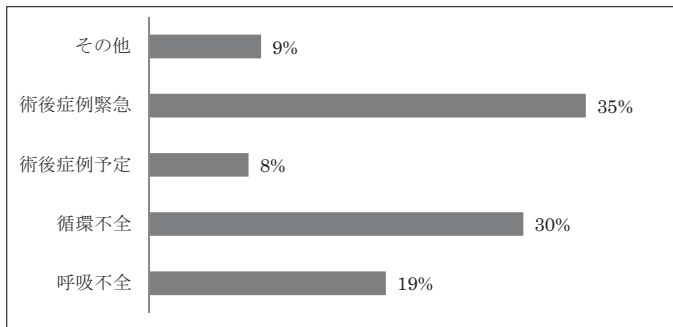


図2 人工呼吸器使用状況

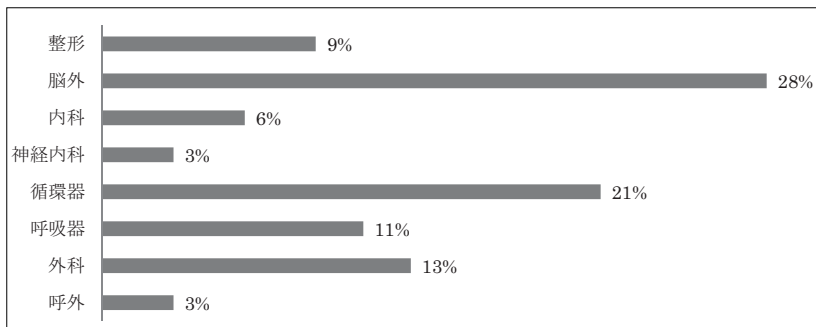


図3 科別人工呼吸器使用状況

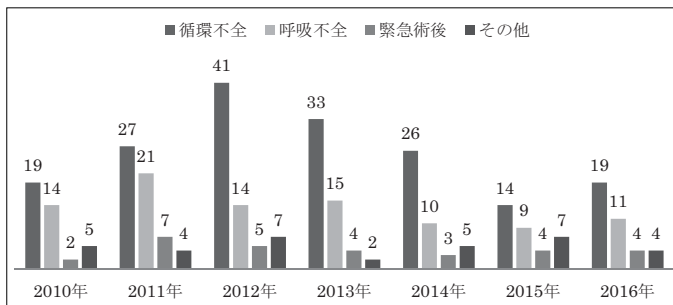


図4 年別死亡原因

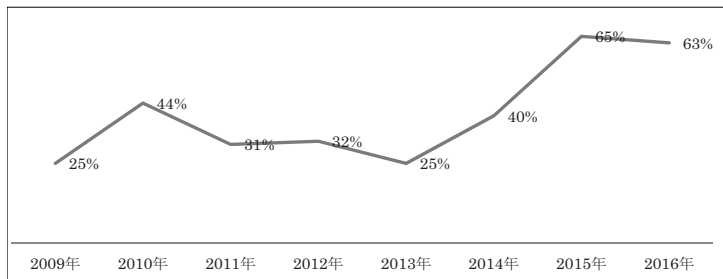


図5 RST介入率

また、2016年の人工呼吸器装着患者の死亡者数は38名で昨年より4名増加しており、循環不全が原因の多くを占めていました(図4)。死亡率に占める割合の37%が蘇生に成功した心停止でした。残りの死因として呼吸器系疾患が29%、脳外科系疾患が11%、その他(敗血症やショックなど)が24%でした。

RST介入率(図5)は、全体の呼吸器使用患者の63%と昨年と同等でした。

非介入例の内訳として、介入前や土日の早期抜管が多かったこと、早期の死亡退院が大半をしめており、非介入としては例年通りの結果と考えます。また、介入期間は1日から最大92日間と長く介入していた患者もいますが平均で6.1日、中央値で2日でした。人工呼吸器離脱率(図6)は2009

年からの8年間のデータでは6割から7割後半程度で推移しており、大きな変化はありません。離脱できなかった4割弱の大半は死亡退院しており、その内訳の半数は蘇生に成功した心停止による死亡退院でした。

2016年は昨年の課題であったせん妄スケールの導入を実施しました。これまでRASS、BPSといったPAD、JPADガイドラインに沿った取り組みを行ってきたことで鎮静と鎮痛の管理が標準的に行えるようになってきています。今回、せん妄評価(Confusion Assessment Method for the ICU: CAM-ICU)の導入によって、より標準的な人工呼吸器管理中の全身管理につなげることが出来るようになりました。今後は患者の予

後が改善できるように引き続きサポートしていきます。

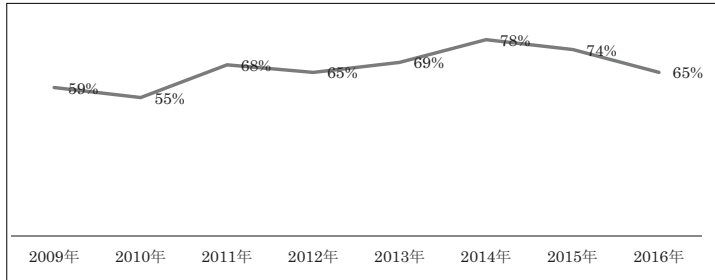


図6 人工呼吸器介入率

3. RST委員会活動内容

① 人工呼吸器装着患者ラウンド
主に集中治療センターにおいて、人工呼吸器装着患者のうち介入依頼のあった症例に対し介入し、人工呼吸器管理から離脱までを主治医とともに管理している。症例により気管切開が必要な場合は、集中治療センターもしくは手術室での気管切開術も施行し合わせて管理している。

- ② 日本集中治療医学会東北地方会（仙台）で演題発表
演題名：「A病院集中治療センターにおけるVAP予防の取り組みとその成果～RSTとの協働～」
発表者：三浦 良哉
日 程：6月25日の口演で発表
- ③ 日本呼吸療法医学会学術集会（名古屋）で演題発表
演題名：「上気道狭窄症例に対する輪状甲状靱帯切開カニューレからの高流量酸素療法の経験」
発表者：正岡 俊明
日 程：7月17日の口演で発表
- ④ ハイフローセラピー（高流量酸素療法）管理マニュアルの運用
ネーザルハイフロー：Nasal High Flow（NHF）導入に伴い、換気設定基準、離脱基準、中止基準、点検表に基づき運用している。

4. RSTリンクスタッフ活動報告

- ① RSTリンクナースによる入院棟ラウンドを開始
リンクナース会議の一環として、人工呼吸器装着中患者および、酸素療法や呼吸療法が必要な患者のラウンドを実施し、管理方法やケアについて共有することで、リンクナースの自部署における役割の明確化と知識の確立を図った。
- ② 自部署における呼吸ケアに関する問題解決に向けた取り組み
呼吸療法関連の問題点を抽出（現状把握）し各部署で問題解決・改善に向けての活動を実践した。

5. 講演会

テーマ：「かんたんな胸部画像の見方・血液ガスのはなし」
講 師：呼吸器外科医師 正岡 俊明
新潟大学医歯学総合病院 高次救命災害治療センター助教：星野 芳史
講演日：2017年2月10日（金）18：00～19：30
参加人数：123名（看護部95名、診療部28名）

6. 3学会合同呼吸療法認定士

平成28年 第20回呼吸療法認定士取得・更新
該当者なし

VI 2016年 荘内病院におけるがん登録の現況報告

当院は、平成22年10月に山形県がん診療連携指定病院に指定され、平成23年から山形県がん診療連携協議会がん登録部会に参加し、平成25年以降、院内がん登録を国に報告している。平成26年は、山形県のがん登録は9,050件、当院の登録は858件で、山形県のがん症例の9.5%が当院から登録されていた。

2016年の当院におけるがん登録の現況を報告する。

登録患者727件で前年比86%であった。来院経路別では、約67%が紹介（他院／がん検診／健康診断）であった。発見経緯別では、他疾患経過観察中が約27%、がん検診・検診等が約25%、自覚症状で受診して診断されたものが約47%であった。がん検診、検診等による発見が、国立がんセンター発表の全国平均20%以下に対し当院は25%とやや多い。また、当院で登録されたがん患者の約88%は当院で治療を行った。

※2016年症例より標準登録項目が変更されたため、集計項目を変更。

来院経路別

(全症例)

来院経路	2015年症例件数 (割合)
自主	54 (6.4%)
紹介 他院	590 (69.6%)
紹介 がん検診	48 (5.7%)
紹介 健康診断	2 (0.2%)
紹介 人間ドック	5 (0.6%)
他疾患経過観察中	123 (14.5%)
その他	26 (3.1%)
合 計	848 (100.0%)

来院経路	2016年症例件数 (割合)
自主受診	102 (14.0%)
他施設紹介	485 (66.7%)
他疾患経過観察中	113 (15.5%)
その他	27 (3.7%)
不明	0 (0.0%)
合 計	727 (100.0%)

発見経緯別

(全症例)

発見経緯	2015年症例件数 (割合)
がん検診	159 (18.8%)
人間ドック・健康診断	46 (5.4%)
他疾患経過観察中	238 (28.1%)
自覚症状・その他	405 (47.8%)
合 計	848 (100.0%)

発見経緯	2016年症例件数 (割合)
がん検診・検診等	180 (24.8%)
他疾患経過観察中	198 (27.2%)
剖検発見	0 (0%)
その他	339 (46.6%)
不明	10 (1.4%)
合 計	727 (100.0%)

症例区分別

(全症例)

症例区分	2015年症例件数 (割合)
診断のみ (他施設へ紹介含む)	91 (10.7%)
自施設診断・自施設治療	610 (71.9%)
他施設診断・自施設治療	116 (13.7%)
他施設にて治療開始後	25 (2.9%)
その他	6 (0.7%)
合 計	848 (100.0%)

症例区分	2016年症例件数 (割合)
診断のみ	66 (9.1%)
自施設診断・自施設治療開始	493 (67.8%)
自施設診断・自施設治療継続	0 (0.0%)
他施設診断・自施設治療開始	110 (15.1%)
他施設診断・自施設治療継続	10 (1.4%)
初回治療終了後	26 (3.6%)
その他	22 (3.0%)
合 計	727 (100.0%)

地域がん登録届出件数

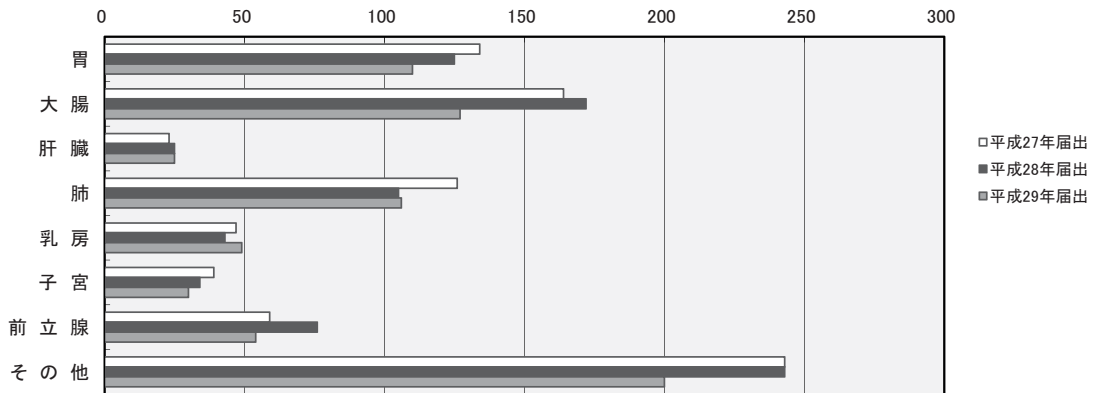
(全症例)

性別	平成27年届出	平成28年届出	平成29年届出
男	506	477	412
女	352	371	315
総数	858	848	727

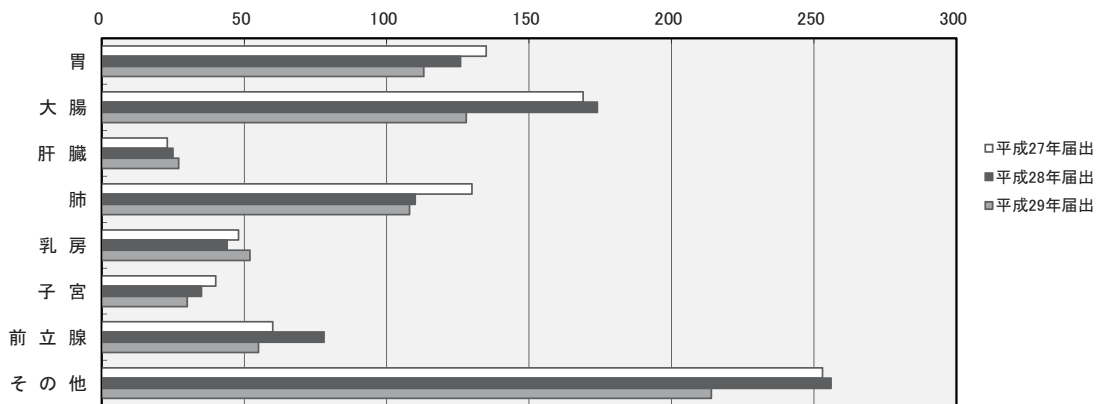
部位別届出件数

部位	平成27年届出		平成28年届出		平成29年届出	
	新発症例	全症例	新発症例	全症例	新発症例	全症例
胃	134	135	125	126	110	113
大腸	164	169	172	174	127	128
肝臓	23	23	25	25	25	27
肺	126	130	105	110	106	108
乳房	47	48	43	44	49	52
子宮	39	40	34	35	30	30
前立腺	59	60	76	78	54	55
その他	243	253	243	256	200	214
総数	835	858	823	848	701	727

がん部位別新発症例届出件数



がん部位別全症例届出件数



性別別届出患者数

(全症例)

部 位	平成27届出			平成28届出			平成29届出		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
C02-06 口唇・口腔	4	2	6	1	1	2	3	3	6
C07-08 大唾液腺	0	1	1	0	0	0	0	0	0
C09-13 咽頭	1	0	1	1	0	1	0	0	0
C15 食道	17	4	21	16	2	18	7	4	11
C16 胃	97	38	135	81	45	126	72	41	113
C17 小腸	0	0	0	0	1	1	0	1	1
C18-19 結腸	64	62	126	62	74	136	58	35	93
C20 直腸	25	18	43	22	16	38	20	15	35
C21 肛門管	0	1	1	0	1	1	0	0	0
C22 肝・肝内胆管	17	6	23	13	12	25	16	11	27
C23 胆のう	2	6	8	6	5	11	3	7	10
C24 胆管	9	10	19	9	7	16	14	12	26
C25 膵臓	14	22	36	26	19	45	18	21	39
C30-31 鼻腔・副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32 喉頭	0	0	0	1	0	1	2	0	2
C34 肺	101	29	130	73	37	110	75	33	108
C37 胸腺	1	0	1	1	0	1	1	1	2
C38・47-49 軟部組織	5	4	9	1	2	3	3	2	5
C40-41 骨	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C42 造血系	9	6	15	15	9	24	10	8	18
C44 皮膚	16	8	24	7	11	18	4	5	9
C50 乳房	0	48	48	1	43	44	0	52	52
C51 外陰	/	0	0	/	1	1	/	0	0
C52 膣	/	1	1	/	0	0	/	0	0
C53 子宮頸部	/	27	27	/	27	27	/	18	18
C54 子宮内膜	/	13	13	/	8	8	/	12	12
C56 卵巣	/	9	9	/	11	11	/	2	2
C57 卵管	/	0	0	/	0	0	/	1	1
C60 陰茎	1	/	1	0	/	0	0	/	0
C61 前立腺	60	/	60	78	/	78	55	/	55
C62 精巣	2	/	2	1	/	1	1	/	1
C64-66 腎・尿路（膀胱を除く）	14	5	19	19	7	26	11	6	17
C67 膀胱	26	9	35	19	8	27	21	5	26
C70 髄膜	1	5	6	3	3	6	1	4	5
C71 脳	3	1	4	3	4	7	3	3	6
C72 脳神経系	1	2	3	2	1	3	1	1	2
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	10	11	5	5	10	3	9	12
C77 リンパ節	12	3	15	9	7	16	5	2	7
C80 原発不明癌	3	2	5	2	4	6	4	1	5
合 計	506	352	858	477	371	848	412	315	727

10歳年齢階級別登録数

(29年届出新発生例)

部 位	0-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	合 計
C02-06 口唇・口腔	0	0	0	0	1	1	3	1	6
C15 食道	0	0	0	0	3	5	0	2	10
C16 胃	0	0	3	7	27	37	29	7	110
C17 小腸	0	0	0	1	0	0	0	0	1
C18-19 結腸	0	0	4	6	25	22	33	2	92
C20 直腸	0	0	2	5	7	9	11	1	35
C22 肝・肝内胆管	0	0	1	0	6	6	9	3	25
C23 胆のう	0	0	1	1	0	3	4	1	10
C24 胆管	0	0	0	1	5	7	10	1	24
C25 膵臓	0	0	0	4	3	11	18	2	38
C32 喉頭	0	0	0	0	0	2	0	0	2
C34 肺	0	0	0	8	21	41	32	4	106
C37 胸腺	0	0	0	0	1	1	0	0	2
C38・47-49 軟部組織	0	0	0	1	1	1	2	0	5
C41 骨	0	0	0	0	0	1	0	0	1
C42 造血系	0	0	1	1	5	5	5	1	18
C44 皮膚	0	0	0	0	0	5	1	3	9
C50 乳房	0	1	7	5	13	10	11	2	49
C53 子宮頸部	1	9	1	4	3	0	0	0	18
C54 子宮内膜	0	1	0	1	6	2	1	1	12
C56 卵巣	0	0	0	0	0	0	2	0	2
C57 卵管	0	0	0	1	0	0	0	0	1
C61 前立腺	0	0	0	3	9	28	14	0	54
C62 精巣	0	1	0	0	0	0	0	0	1
C64-66 腎・尿路（膀胱除く）	0	0	0	1	3	3	2	4	13
C67 膀胱	0	0	0	2	5	8	8	1	24
C70 髄膜	0	0	0	1	1	1	0	0	3
C71 脳	2	0	0	0	1	2	1	0	6
C72 脳神経系	0	0	0	0	1	1	0	0	2
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	2	1	1	2	3	2	0	0	11
C77 リンパ節	0	0	0	0	4	0	3	0	7
C80 原発不明癌	0	0	0	0	1	2	1	0	4
合 計	5	13	21	55	155	216	200	36	701

VII 荘内病院人間ドック・検診検討委員会報告

人間ドック・検診成績表

		受診者(A)	要精検者(B)	精検受診者中 回報書回収(C)	がん以外 その他疾患(D)	がん (E)	
		(一次検診 受診者数)	(要精検率) 要精検者/受診者 (B)/(A)	(精検受診率) 回収/要精検者 (C)/(B)	疾患/要精検者 (D)/(B)	(陽性反応適中度): (がん発見率) がん/要精検者: がん/受診者 (E)/(B) (E)/(A)	
H26ドック	大腸がん検診	1,919	135 7.03%	97 71.85%	53 39.26%	2 1.48%	0.10%
	胃がん検診	1,909	79 4.14%	62 78.48%	35 44.30%	3 3.80%	0.16%
	肺がん検診	1,923	52 2.70%	42 80.77%	17 32.69%	2 3.85%	0.10%
	子宮がん検診	532	11 2.07%	8 72.73%	8 72.73%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	629	48 7.63%	38 79.17%	7 14.58%	2 4.17%	0.32%
	甲状腺	629	2 0.32%	2 100.00%	2 100.00%	0 0.00%	0.00%
	合計						
H27ドック	大腸がん検診	1,882	140 7.44%	62 44.29%	36 25.71%	5 3.57%	0.27%
	胃がん検診	1,861	52 2.79%	39 75.00%	17 32.69%	7 13.46%	0.38%
	肺がん検診	1,884	66 3.50%	53 80.30%	28 42.42%	1 1.52%	0.05%
	子宮がん検診	525	2 0.38%	2 100.00%	1 50.00%	1 50.00%	0.19%
	乳がん検診	649	44 6.78%	34 77.27%	6 13.64%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	649	5 0.77%	5 100.00%	1 20.00%	0 0.00%	0.00%
	合計						
H28ドック	大腸がん検診	1,857	139 7.49%	95 68.35%	57 41.01%	2 1.44%	0.11%
	胃がん検診	1,828	68 3.72%	46 67.65%	27 39.71%	10 14.71%	0.55%
	肺がん検診	1,858	48 2.58%	38 79.17%	23 47.92%	1 2.08%	0.05%
	子宮がん検診	490	4 0.82%	4 100.00%	3 75.00%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	652	36 5.52%	30 83.33%	9 25.00%	2 5.56%	0.31%
	甲状腺	652	1 0.15%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%
	合計						
		受診者(A)	要精検者(B)	精検受診者中 回報書回収(C)	がん以外 その他疾患(D)	がん (E)	
		(一次検診 受診者数)	(要精検率) 要精検者/受診者 (B)/(A)	(精検受診率) 回収/要精検者 (C)/(B)	疾患/要精検者 (D)/(B)	(陽性反応適中度): (がん発見率) がん/要精検者: がん/受診者 (E)/(B) (E)/(A)	
H26検診	乳がん検診	238	24 10.08%	21 87.50%	4 16.67%	2 8.33%	0.84%
	甲状腺	238	5 2.10%	4 80.00%	4 80.00%	0 0.00%	0.00%
H27検診	乳がん検診	203	16 7.88%	16 100.00%	2 12.50%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	203	1 0.49%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%
H28検診	乳がん検診	177	15 8.47%	14 93.33%	3 20.00%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	177	8 4.52%	7 87.50%	2 25.00%	0 0.00%	0.00%

VIII 死亡症例検討会

第115回：平成28年 1 月25日

症例 1 87F AN1334

臨床診断 急性膵炎

症例提示・病理報告

臨床研修医 北村卓也 医師

臨床研修医 西見由梨花 医師

指導医 病理科 内ヶ崎新也 医師

病理科 深瀬眞之 医師

内 科 安宅 謙 医師

第116回：平成28年 2 月22日

症例 1 53M AN1333

臨床診断 CPAOA

糖尿病

症例提示・病理報告

臨床研修医 飯田祥平 医師

臨床研修医 松延武彦 医師

指導医 病 理 科 内ヶ崎新也 医師

内 科 菅 秀紀 医師

症例 2 89M AN1332

臨床診断 腸腰筋膿瘍

敗血症性ショック

DIC

症例提示・病理報告

臨床研修医 前田向陽 医師

指導医 病 理 科 内ヶ崎新也 医師

消 化 器 科 板垣茂文 医師

2015年 剖検記録要約

剖検番号	年齢	性別	臨床診断[科名]	病 理 診 断
1333	53歳	男性	突然死 [救急]	心刺激伝導系異常（不整脈）（415g） 1. 肺うっ血水腫（左:830g, 右:925g）、2. 脂肪肝(2310g), 3. [糖尿病] 膵萎縮+脂肪浸潤（130g）
1334	87歳	女性	急性膵炎 [内科]	うっ血水腫を伴う気管支肺炎（左:305g, 右:525g） 1. 全身性老人性アミロイドーシス（心筋、肺など）、 2. 慢性膵炎（非アルコール性）

荘内病院年譜

2016年（平成28年）

2016年 年譜

- 1月1日 元日
- 1月4日 仕事始め 院内職場激励巡視
鶴岡市永年勤続表彰（25年勤続）
本間 司 石川順子 佐藤 順 遠藤里美 佐藤美香
五十嵐慶 横田丞美 佐々木律子 白峯ゆみ
鶴岡市名刺交換会
- 1月10日 荘内病院PEACE研修会（講堂）
～11日
- 1月14日 鶴岡地区歯科医師会新年会
- 1月15日 鶴岡地区医師会新年会
- 1月23日 鶴岡地区薬剤師会新年会
- 2月1日 新潟大学関連病院長会議
- 2月27日 庄内プロジェクト活動報告会
- 3月3日 鶴岡准看護学院卒業式
- 3月5日 第40回荘内看護専門学校卒業式
- 3月6日 みらい健康調査推進セミナー
- 3月9日 庄内地域保健医療協議会
鶴岡市休日夜間診療協議会総会
- 3月16日 日本財団より湯田川リハ病院へ車贈呈
- 3月19日 つるおか健康塾
- 3月20日 レジナビフェア2016 in 東京
- 3月25日 山形大学医学部卒業式
- 3月26日 病院見学・説明会
- 3月27日 内科系診療部長 板垣茂文先生 逝去
- 3月30日 蔵王協議会総会
- 3月31日 退職職員 看護師 日下部京子 五十嵐利恵 加藤豊子 橘 沙知
門脇鈴子 菅原千愛 本間 文 前野元子
佐藤千鶴子 八幡千穂 本間ゆい
栄 養 士 斎藤禎子
理学療法士 白幡延浩
作業療法士 佐藤麻人
診療放射線技師 伊藤与一
臨床検査技師 佐藤誠治
事務部 加賀山 誠 村田啓一
- 4月1日 辞令交付式 新規採用 研修医（管理型）5名、看護師15名、薬剤師2名
臨床検査技師1名、理学療法士2名、診療放射線技師1名、事務部1名
再任用 1名
転入 栄養士1名、事務部5名

- 看護師院外派遣研修 昭和大学横浜市北部病院 1名
新潟市民病院 1名
- 4月7日 鶴岡准看護学院入学式
- 4月14日 第43回荘内看護専門学校入学式 21名入学
- 5月13日 ふれあい看護体験 市内高校生が参加
- 5月30日 新潟大学関連病院長会総会
- 6月2日 ANA すずらん贈呈式
- 6月3日 自治体病院協議会総会（瀬見温泉）
～4日
- 6月27日 鶴岡市立荘内病院創立記念式典 創立103周年
20年勤続感謝状贈呈
安達由起子 上野雅恵 太田啓子 日下部武美 齋藤さち
齋藤しのぶ 齋藤美記 齋藤友子 佐藤さおり 菅原早苗
高橋深雪 難波裕子 長谷川千華 三浦栄子 若生 円
長谷川幸人 八向 守 今野一夫 五十嵐友子
- 6月30日 鶴岡市休日夜間診療協議会総会
- 7月4日 火災総合訓練
- 7月14日 鶴岡地区勤務医と医師会員懇談会
- 7月15日 緩和医療講演会
- 7月16日 山形県医療マネジメント学会（山形市）
- 7月16日 つるおか健康塾
- 7月18日 レジナビフェア2016 in 東京
- 7月26日 第6回荘内病院オープンホスピタル（16名参加）
- 7月28日 公立病院連盟東北支部総会（山形市）
- 8月2日 病院説明・見学会
- 8月10日 ジュニアオーケストラミニコンサート
- 8月18日 全国自治体病院協議会東北地方会議
- 8月20日 病院ボランティア赤川花火観覧
- 9月1日 IBD/ピロリ菌外来開設
ライナック更新工事開始 約半年を予定した
- 9月7日 東北厚生局適時調査
- 9月16日 山形県病院協議会定期総会
- 9月18日 荘内看護専門学校 看学祭
- 9月24日 山形県緩和ケア研究会（山形市）
- 9月25日 荘内病院OB会
- 9月28日 緩和ケアコンサート
- 9月30日 新潟大学医学部学生会 荘内支部総会
- 10月1日 荘内病院地震訓練
鶴岡市新市制施行記念式典
- 10月6日 緩和ケア講演会（蘆野先生）
- 10月17日 鶴岡市休日夜間診療協議会
- 10月28日 山形県自治体病院協議会看護部長会（鶴岡市うしお荘）
～29日

- 10月30日 高校生セミナー
鶴岡市総合防災訓練
- 11月2日 新型インフルエンザ対策訓練
- 11月10日 全国公立病院連盟総会（仙台市）
功績表彰者 前看護部長 阿部恵子
- 11月11日 荘内看護専門学校 継灯式
- 11月12日 緩和ケア市民公開講座
- 11月16日 鶴岡准看護学院 戴帽式
- 11月18日 山形県病院協議会院長会
五者懇談会
- 11月21日 新潟大学関連病院長会議講演会
- 11月25日 臨床研修病院実地調査
- 11月26日 つるおか健康塾
- 11月27日 庄内医師集談会（酒田市）
- 12月1日 施設基準 ハイケアユニット入院医療管理料取得
- 12月8日 山形ADR講演会
- 12月20日 鶴岡地区病院協議会
- 12月21日 病院機能評価受審
～22日
- 12月26日 鶴岡市総合計画審議会

鶴岡市立荘内病院医学雑誌について

名 称	鶴岡市立荘内病院医学雑誌	編集委員 委員長	正岡俊明
略 名	鶴岡荘内病院医誌	副委員長	高柳健史
欧文名称	The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital	委 員	白幡康弘 古屋紀彦 和泉典子 石川大介
欧文略称	Med.J.Shonai Hospital		菅原永里奈 遠藤広志
発 行 者	三科 武		鈴木 郁 押井あけみ
発 行 所	鶴岡市泉町4番20号 鶴岡市立荘内病院		金子弘美 上林千夏 阿部奈美
		発行部数	450部
		発行回数	毎年1回

鶴岡市立荘内病院医学雑誌投稿規定 (第25巻より)

本誌の内容および投稿資格について

- 1 本誌に掲載する論文は、鶴岡市立荘内病院の職員及びその関係者の投稿による。
以前当院の職員であった場合の投稿については、当院で経験された症例であり、他誌への掲載がない場合のみ投稿を許可する。
- 2 本誌は、医学に関する症例研究、学術研究、綜説、症例報告、集談会記録、この他病院活動、病院統計、病院管理運営に関する記録も収録する。
- 3 原著、綜説は未発表のものに限る。
- 4 他雑誌に全文収載された論文については、著書名、標題名、収載雑誌名、巻、号、ページ、年を記録し、抄録を載せる。
- 5 学会・集会等において、これらの記録誌に抄録のみ収載されたものについては、講演原稿あるいはこれを改稿して論文の体裁を整えたものあるいは抄録を収録して、発表した学会・集会名、発表年月日を併記する。
なお、4、5については、各部門の業績として責任者が一括して(様式は、別に定める)図書室司書に提出する。
- 6 論文は査読を行い、採否、掲載順序は編集委員会が決定する。

論文の構成と書き方

- 7 原稿の形式は、標題、氏名(所属)、400字程度の要約、Key words(5個以内)、本文、文献、写真、図表とする。
- 8 原稿は、原則として20字×20行とし、邦文、横書き、平かな、当用漢字(専門用語は使用してよい)、現代かなづかいを用いる。
原稿用紙は、20字×20行であれば、市販の用紙でもかまわない。
ワープロを使用する場合は、20字×20行詰原稿とする。
- 9 本文の長さは、原著24枚、症例20枚程度を標準とする。(図表を除く)
- 10 論文には英文タイトルおよびローマ字による著者名を併記する。
- 11 外国語の固有名詞は、原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものは片かなとする。
薬品名は、商品名を用いず、正式名を用いる。
- 12 度量衡は、C.G.S.単位とし、算用数字を用いる。ただし、専門的な分野については考慮する。

図・表・写真について

- 13 図表は、原稿本文とは別の用紙に黒インクで書き、表題や説明をつける。
- 14 写真等は、原則として白黒とし、挿入箇所は原稿用紙の欄外に朱書きする。
- 15 カラー写真は、原則として認めないが、編集委員会で認めたものについては、カラー印刷とする。

文献について

- 16 文献は、出現順に番号を文章の右肩に附し、本文の終わりにまとめて記載する。
外国雑誌は Index Medicus、邦文雑誌は医学中央雑誌収載誌目録による略語を使用する。著者は、初出の2名までとし、以下は邦文では他、欧文では et alと記載する。標題名は完全に記載する。

〔原著の場合〕

著者名：論文題名. 雑誌名 巻(号)：頁～頁,
西暦年号

例：

1) 邦文誌

宮田清典, 高田 治, 他：グルカゴンーインスリン療法にて減黄効果を得た胆汁うっ滞性黄疸の1例. 最新医学 44(3):632-638,1989

2) 欧文誌

McMahon BJ, Helminiak C, et al: Frequency of adverse reactions to hepatitis B vaccine in 43,618 persons. Am J Med 92:254-256,1992

〔著書(単行本)の場合〕

著者名：題名. 監修者名(編者名), 書名, 版,
頁～頁, 出版社, 出版地,

西暦年号

例：

1) 和書

内野治人, 他：前白血病. 中尾喜久監修, 白血病のすべて, 2版, p38-45, 南江堂, 東京,

1981

2) 洋書

Gardnar MB: Oncogenes and acute leukemia. Stass SA(ed), The Acute Leukemias, p327-359, Marcel Dekker, New York, 1987

その他

- 17 原稿申込は年中受け付けるものとするが、2月末日までに提出されたものは、最新号への掲載とする。原稿受付は編集委員会が行い、その受付代表を図書室司書とする。
- 18 校正は、原則として著者が行う。
- 19 別刷は、20部まで病院の負担で行う。それ以上は、実費を著者の負担とする。(校正時に別刷の部数を指定すること)
- 20 本誌に掲載された論文の著作権は、荘内病院に帰属するものとし、出版権・複製権・公衆送信権の利用について許諾するものとする。

(平成11年4月1日 改正)

(平成20年4月1日 改正)

(平成25年12月1日 改正)

(平成26年12月1日 改正)

【学術活動業績の書き方】

－他誌に論文を掲載した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

著者名

掲載した雑誌名 巻(号)：頁～頁, 西暦

要 約 (必要な場合)

－学会に発表した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

発表者

第○回

学会名 (発表した日付 西暦年 月 日)

抄 録 (必要な場合)

－院外で講演を行なった場合－

講演タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科 講演者

講演会名 (講演会日 西暦年 月 日)

－院内での各種研修会を行なった場合－

各部署ごとにまとめて、前巻にならって提出して下さい。

上記の様式で書き、各部門の責任者がまとめてから提出してください。

荘内病院医学雑誌編集委員会要綱

(目 的)

第1条 この要綱は荘内病院医学雑誌を編集するために設置する編集委員会（以下「委員会」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

(所 轄 事 項)

第2条 委員会は、病院が発行する医学雑誌の編集および関係機関への配布を所轄する。この医学雑誌はとりあえず年1回発行し、将来は複数回発行を目指すものとする。

(組 織)

第3条 委員会は委員長1名、副委員長1名および若干名の委員より構成される。

2 委員は病院職員のなかから院長が委嘱する。

3 委員長および副委員長は委員の互選により決定する。

4 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。任期終了後、再度委嘱されることを妨げない。

5 次期委員の推薦は、編集委員の任期終了前に、病院管理者と委員との合同会議で行なうものとし、被推薦者の同意を得るものとする。

(顧 問)

第4条 委員会の円滑な運営を図るため、次の顧問を置く。

- (1) 副院長
- (2) 診療部長
- (3) 事務部長
- (4) 看護部長
- (5) 教育研究研修委員長及び副委員長

(支 援 組 織)

第5条 委員会において困難な問題が生じ、他の

病院職員の支援を必要とするような場合は、医長会議および科長会議に諮るものとする。これらの機関はしかるべき援助をしなければならない。

(会 議)

第6条 委員長は必要に応じて委員会を召集し会議を主催する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在のときはその職務を代行する。

3 委員会は必要に応じ、上記以外の職員または知識経験者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(投 稿 等)

第7条 職員は病院の使命を果たすために必要な研讃に努めるとともに、委員会の業務に協力するものとする。

2 投稿規定は別に定める。

(庶 務)

第8条 委員会の庶務は事務部において処理する。

付 則

この要綱は、1989年6月より適用する。

この要綱は、2001年10月1日に改定、施行する。

この要綱は、2003年7月1日に改定、施行する。

編 集 後 記

昨年2017年は、トランプ政権誕生に始まり、北朝鮮のミサイルに怯え、上昇機運に乗った小池さんは自らの失言で大失速、森かけ問題はうやむやに安倍政権は安泰、最後は横綱の暴行に端を発した角界の大騒動などいろいろありました。明けて2018年、平成30年戌年になりました。世の中ではいろいろなことが起きるかと思いますが、それはそれとしてしっかり個人目標を立てて世の中に惑わされないように行きたいものです。目標の一つとして「学术论文を書く」のもいいのでは？ 皆さま、是非、奮って投稿して下さい。

さて、今号の特集は「当院の認知症ケアの現状と問題点」を取り上げました。急激な高齢化社会の進行で、今は大きな社会問題となっている「認知症」に対して医療が今、どのように取り組んでいるのか？ また、高齢化の波の先端に位置する我が病院の現状はどうか？ を知る良い機会ですのでぜひ一読をお願いしたいと思います。

最後に、日々の忙しい診療や業務の傍ら学术论文を作成し投稿していただいた方々、原稿依頼を快く引き受けて下さった特集の筆者の方々、本誌編集委員の皆様、そして雑誌発刊までの長くかつ膨大な業務をお任せしている事務局の阿部奈美委員、上林千夏委員に厚くお礼を申し上げます。

平成30年1月11日

編集委員 正岡俊明

鶴岡市立荘内病院医学雑誌

第 28 卷

2018年 3月16日印刷
2018年 3月26日発行
発行者 三 科 武
編集者 鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
発行所 鶴岡市立荘内病院内
鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
〒997 - 8515 鶴岡市泉町4番20号
電 話 0235 (26) 5111
F A X 0235 (26) 5110
URL = <http://www.shonai-hos.jp>
e-mail : tosyo@shonai-hos.jp

印刷人 黒 井 徳 夫
印刷所 J A 印 刷 山 形
〒997-0004
鶴岡市本田字八百地275番地
電 話 0235 (24) 0690
FAX 0235 (24) 0637